

# 森林防疫ニュース

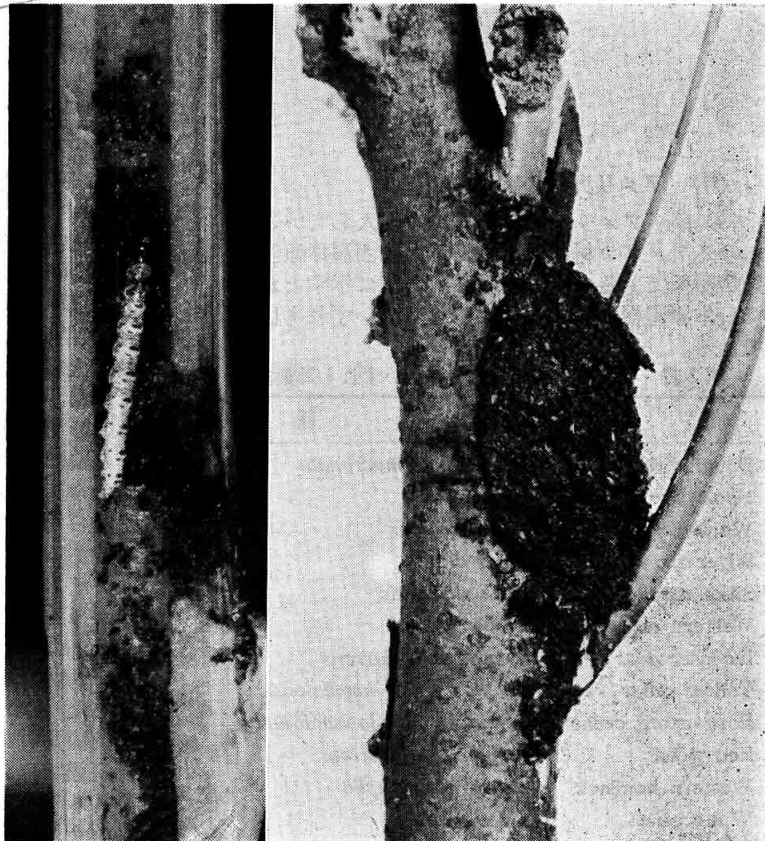
(157)  
VOL. 11  
No. 7  
(No.124)

発行/全国森林病虫獣害防除協会/東京都千代田区永田町国立国会図書館内 編集/林野庁 1962. 7. 1 (月刊)

## コウモリガ

撮影■遠田暢男

えんだ・のぶお氏は林業試験場昆虫第2研究室勤務。写真左は1958年7月、右は1958年11月、いずれも山形県の釜淵で撮影。



成虫はコウモリのように夕暮れに活動して、飛びながら産卵し、いたるところに生息して、幼虫はあらゆる樹種を加害する。

若齢幼虫は、下草類の茎の中で過ごし(写真左)、のちに樹木に移動して、穿入孔を木屑と虫糞でつづるので、容易に発見できる(写真右)。

## 目次

### 解 説

- 輸入木材とその害虫(2).....梅谷敏二・田口俊郎..... 2  
シラホシゾウムシ類3種の見分け方.....森本 桂..... 6

### 調査の手引き

- ✓マツクイムシの和名と学名.....林試/昆虫第2研究室..... 8

### 事業の記録

- ✓松くい虫に対する殺虫剤T-7.5-2号の使用について.....吉井 宅男..... 9  
✓松くい虫駆除に組織づくりを一千葉県の場合.....米林俊三・村田武彦.....11  
✓松くい虫駆除の機動班について一鹿児島県の場合.....脇野 透三.....14

### 雑 感

- 一森林保護学者の欧米100日間見聞記(5).....今関 六也.....18

### 情 報 被 害 速 報.....26

- トウヒおよびアカマツのてんぐす病について.....浜 武人.....24      ○ 東西南北.....25

解 説

輸入木材とその害虫 (2)

梅谷 献二 / 田口 俊郎

横浜植物防疫所調査課・農博

同・農林技官

(ii) アメリカ材の害虫

わが国がアメリカ、カナダから輸入しているいわゆるアメリカ材は大部分が新大陸西海岸原産の針葉樹種である。主な樹種は第2表に示すとおりで日本原産樹木と共通種は少なく、いずれも巨木である。

第2表 アメリカ材の主な樹種 (いずれも針葉樹)

俗 称	樹 種
Douglas fir	<i>Pseudotsuga mucronata</i>
Noble fir	<i>Abies nobilis</i>
White fir	<i>Abies concolor</i>
Silver fir	<i>Abies alba</i>
Sitka spruce	<i>Picea sitchensis</i>
Western red cedar	<i>Thuja plicata</i>
Incense cedar	<i>Libocedrus decurrens</i>
Yellow cedar	<i>Chamaecyparis nootkatensis</i>
Port orford cedar	<i>Chamaecyparis lawsoniana</i>
Red wood	<i>Sequoia sempervirens</i>
Western hemlock	<i>Tsuga heterophylla</i>
White pine	<i>Pinus strobus</i>
Sugar pine	<i>Pinus lambertiana</i>
Ponderosa pine	<i>Pinus ponderosa</i>

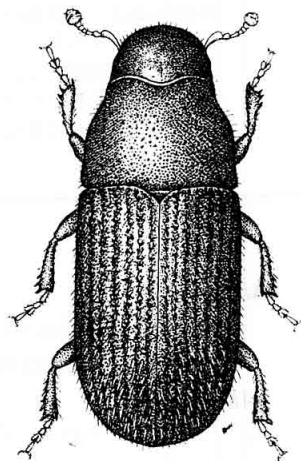
これらの材から発見される害虫類はそのグループ別に見ると北洋材の場合と比較的似ている。すなわち前号第4図で示したように、アメリカ材もその発見害虫の主な種類はキクイムシ類で全体の60%以上を占めている。キクイムシ類は20種ほど発見されているがほとんどは樹皮下を食害するいわゆる Bark beetles の仲間、材部に穿孔する Ambrosia beetles はわずかにキクイムシ科、ナガキクイムシ科でそれぞれ1種が発見されているのみである。Bark beetles はほとんど本邦未分布の種であるが、特に重要なものは *Dendroctonus* 属の1群であろう。この属のキクイムシは輸入検疫でしばしば発見されており、ベイマツに大害を与えアメリカで Douglas fir beetle と呼ばれ恐れられている。*D. pseudotsugae* (第9図) を始めとし、*D. obesus*, *D. brevicomis* などすでに6種

がわが国の各門戸で発見されている。*Dendroctonus* 属のキクイムシは世界から24種が知られていて、現在はそのうち23種が新大陸のみに分布し日本を含め旧大陸にはわずかにエゾマツオオキクイムシ *D. micans* 1種が分布しているにすぎない。比較的大形の種が多く、緯度の点から考えてわが国に土着する可能性は十分あり、とくに西部地帯に分布する種類は、材と共に持ち込まれる機会も多いので今後とも警戒の要があると思われる。

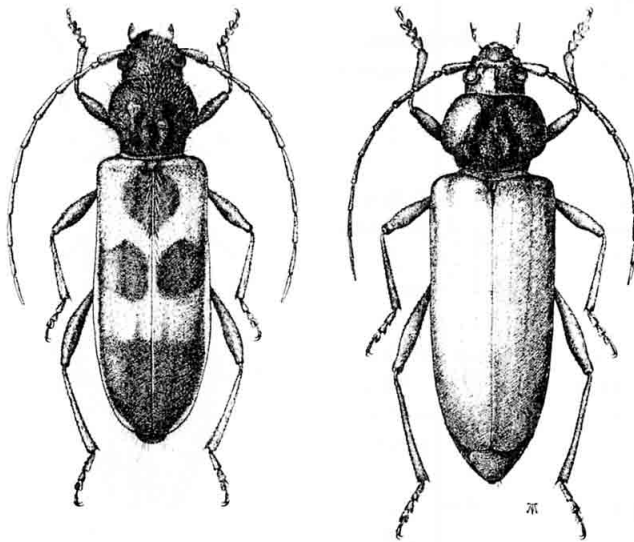
その他のキクイムシ類は発見頻度の点で *Dendroctonus* 属よりいずれも劣り、大部分は本邦へ侵入土着の可能性も前者に比較して低いと思われる種類である。

キクイムシ類以外の甲虫ではカミキリムシ科のものが多く、現在までに7種が発見されている。

第10図はそのうち *Semanotus* 属の2種を示したものである。両種共にアメリカ特産種で、クロボシヒメスギカミキリ *S. ligneus* は Cedar-tree borer と呼ばれ各種杉材の害虫として知られている。検疫ではベイスギ *Thuja plicata*, *Sequoia sempervirens* の材から数回発見されている。体長は7~20mm、翅鞘は赤褐色を呈し、図に示すような黒色大紋を有する。本種はかつて1927年に東京で採集され誤って新種として発表されたことがあるが、恐らく当時アメリカからの輸入材から脱出したものが偶然採集されたものであろう。ルリバネスギカミキリ *S. amethystinum* は体長25~28mm 光沢のある青藍色の翅鞘をもつ美しい種で



第9図 *Dendroctonus pseudotsugae* HOPKINS



第10図 左 : *Semanotus Ligneus* F.  
右 *S. amethystinum* LE. CONTE

Western cedar bark borer と呼ばれ前種と同様に杉材の害虫として知られている。検疫では東京港において相当数の幼虫がベイヒノキ *Chamaecyparis lawsoniana* の材から発見されている。

その他 *Neoclytus conjunctus*, *Monochamus oregonensis*, やタマムシ科の *Melanophila drumondi* など本邦未分布の種がかなり発見されているが、検疫上とくに重要害虫と考えられる種は少ないので省略する。

甲虫類以外ではカリフォルニアキバチ *Urocerus californicus* などの本邦未分布のキバチ科 *Siricidae* のものが稀に発見されその侵入が警戒されている。

ここで検疫で発見されるアメリカ材の害虫類の一般的特徴をあげれば次の如くである。

a. キクイムシ類が多いが、大部分は樹皮キクイムシ類 (Bark beetles) で材部を穿孔する種類は極めて少ない。

b. わが国との共通種は少ない。

c. わが国に侵入土着の恐れのある種としては *Dendroctonus* 属のキクイムシが多く発見される。

(iii) 南洋材の害虫

東南アジア一帯から輸入されるラワン材を主体とした建築、合板用の巨材を総称して南洋材と呼んでいるが、その大部分はフィリッピンおよびボルネオ原産のもので、フタバガキ科の *Shorea*, *Dipterocarpus*, *Dryobalanops* などの多属にわたる極めて多くの種を含んでいる。その代表的な樹種をあげれば第3表に示すとおりである。これらの材から検疫時に発見される害虫の90%はキクイ

ムシ科およびナガキクイムシ科に属する種で、更にそのほとんどが北洋材、アメリカ材の場合とは逆に材部に穿孔するいわゆる Ambrosia beetles で占められ、これが南洋材の害虫の大きな特徴となっている (前号第4図参照)。

従来の植物検疫で発見されたキクイムシ類の大部分は未同定であるが、すでにキクイムシ科約80種、ナガキクイムシ科約60種におよんでいる。

ここで南洋材の産地である東南アジア一帯に分布するキクイムシ類をわが国の場合と比較すると樹皮キクイムシ類 (Bark beetles) には一種も共通種がなく、材部キクイムシ類 (Ambrosia beetles) に12種の共通種が存在する。従来わが国のキクイムシ類のうち前者は北から、後者は南から侵入土着したといわれているが、輸入材における発見害虫もこのことを裏付けているように思える。輸入南洋材の中にはわが国と

共通の樹種はないが、なおかつそれに寄生している材部キクイムシ類が危険視される理由は、本来このグループが材を直接摂食することなく、孔道内に繁殖した Ambrosia 菌を食して生活するため加害樹種が広範に及ぶ種が多いことにある (なかには広葉樹種のみならず針葉樹種まで加害する種類もある)。このことは南洋材と共通の樹種がほとんどわが国にない事実が必ずしもそれに寄生し

第3表 南洋材の主な樹種

\*は針葉樹

俗 称	樹 種	主 産 地
Red lauan	<i>Shorea negrosensis</i>	Philippine
White lauan	<i>Pentacme contorta</i>	
Apitong	<i>Dipterocarpus grandostoflorus</i> , <i>D. basilanicus</i>	
Tanguile	<i>Shorea polysperma</i>	North Borneo
Seraya	<i>Parashorea malaanonan</i> , <i>Shorea</i> spp.	
Kapur	<i>Dryobalanopus</i> spp.	Sarawak
Kruen	<i>Dipterocarpus</i> spp.	
Meranti	<i>Shorea</i> spp.	
Radiata pine	<i>Pinus radiata</i> *	New Zealand Australia

ている材部キクイムシ類の侵入を許容しないことを意味することにならないことを示す。また、材部深くにひそむこのグループの生活型は当然生活力を強くし、過去に丸太と共に海流によって移動分布した報告例もあり、南洋材の材部キクイムシ類は十分その侵入を警戒しなければならぬと同時に、以上とは全く反対の理由で南洋材の樹皮キ

クイムシ類は北洋材の場合のように危険な存在とはなり得ないと解される。

ここでは検疫で発見されたわが国未分布の南洋材のクイムシ類について種名の判明したものの中から一部を紹介しておきたい。

発見頻度も比較的多くかつ重要な種類を多く含むのはクイムシ科の *Xyleborus* 属のもので、すでにフィリピンザイノクイムシ *X. perforans*, *X. fleutiauxi*, *X. rielii*, スマトラザイノクイムシ *X. amphicranoides*, *X. sexspinosus* など多くの種類がラワン材から発見されている。このうち特に *X. fleutiauxi* (第11図) はボルネオ、フィリピンに分布する種類で、体長は約4mm 光沢のある黒褐色を呈し、検疫ではしばしば発見され、木材検疫上もっとも重要な害虫の一つと目されている。

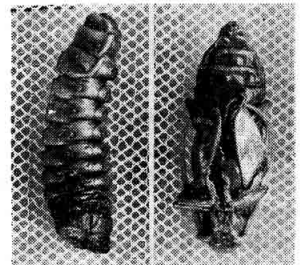
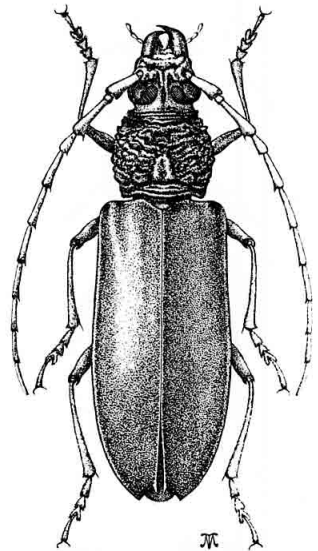
ナガクイムシ科に属する種は現在までに9種が発見されており、それらのうちフィリピン、ボルネオ附近一帯に分布するナンヨウコナガクイムシ *Crossotarsus bifurcus* (第12図)、シンガポール、ボルネオに分布するシンガポールナガクイムシ *Platypus cordiger*, フィリピンに分布するルソンナガクイムシ *Platypus setaceus* などが比較的发見頻度も高く重要な種であると思われる。ほかに *P. biuncus*, *P. schultzei*, *P. westwoodi* なども輸入時に発見されている。

クイムシ類以外の甲虫では、わが国への侵入の危険性の大きい種は少ないが、現地でかなりの害を与えている種は散見される。その一部を述べると次の如くである。

カミキリムシ科では特筆すべき種は少ないがインド、ビルマ、スマトラなど東南アジア一帯に広く分布しラワン材の大害虫として知られているラ

ワンオオカミキリ *Hoplocerambyx spinicornis* の幼虫がラワン材からしばしば発見されている。本種の成虫は体長20~60mmで体は黒色または暗褐色を呈する(第13図)。幼虫は老熟すると大きい個体では90mmにも達し、少数の個体が寄生しても大害を受けるといふ(第14図)。

ゾウムシ科ではシンガポール産の *Mersawa* 材からシロホンアアナキゾウ *Niphades pardalotus* (第15図)、ニューギニア原産のパルプ材からアアナキゾウムシの1種 *Aclees porosus* およびクモゾウムシの1種 *Mecopus terrae-reginae* (第16図) などが発見されているが、いずれも枯死木を食害



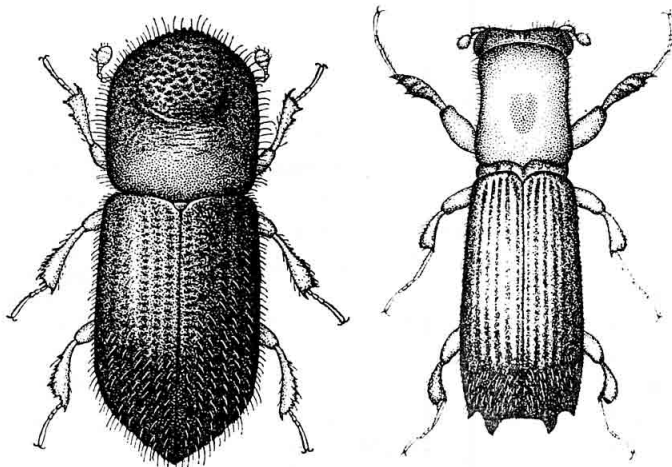
第13図 *Hoplocerambyx spinicornis* NEWMAN (♀) (上)

第14図 *Hoplocerambyx spinicornis* の蛹および幼虫 (下)

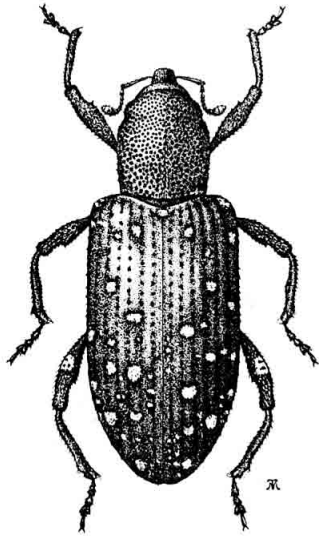
する種なので、害虫としての重要性は小さいと思われる。

タマムシ科の主なものとしてはマレー材からインドムツボンタマムシ *Chrysobothris indica* (第17図) およびマレーカタビロタマムシ *Asemochrysus regulosus* (第18図) が発見されている。前者はインドからマレーにかけて広く分布し、*Terminalia* 属の植物を加害する種で、体長は13mm内外、光沢のある青銅色を呈する。後者はマラヤに分布し、体長20~30mm金緑色を呈する大形美麗種で、検疫では各港で発見されているがその生態はほとんどわかっていない。

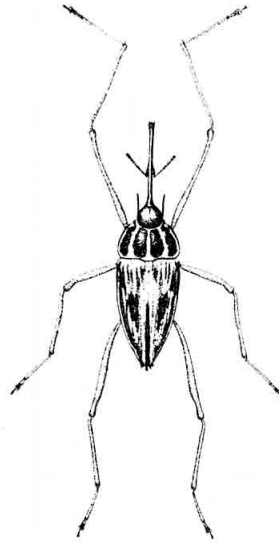
上記のほかにマレー材からコウシュンヒゲナガゾウムシ *Mecocerus allect-*



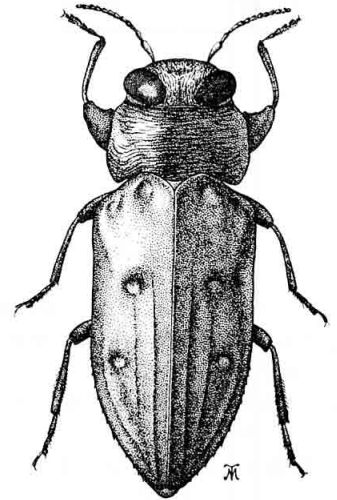
第11図 *Xyleborus fleutiauxi* BLANDFORD 第12図 *Crossotarsus bifurcus* SCHEDL



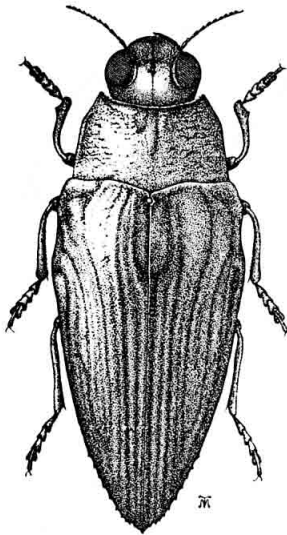
第15図 *Niphades pardalotus* PASCOE



第16図 *Mecopus terrae-reginae* HELLER



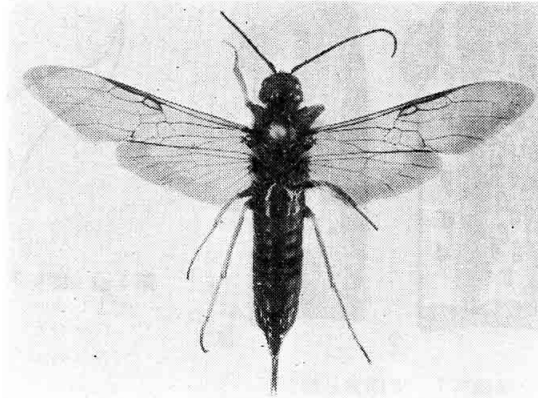
第17図 *Chrysobothris indica* CASTELNEU et GORY



第18図 *Asemochrysus regulosus* H. DEYR.

usおよびエグリコガネの1種 *Macronota pulchella* フィリッピンのラワン材からヒメクロツヤムシ *Leptaulax bicolor* など特殊な種も発見されているが、いずれも極めてめずらしい事例である。

鞘翅目以外の害虫ではニュージーランド産の *Radiata pine* からノクチリオキバチ *Sirex noctilio* (第19図) が各港においてしばしば採集されている。成虫は個体変異が大きく翅開張20~40mm, 腹部は一般に光沢のある黒藍色を呈する。本種はヨーロッパ, シベリヤ, カナダに分布しニュージー



第19図 *Sirex noctilio* F. (♀)

ーランドには近年侵入土着したもので、多種の針葉樹に大害を与えわが国への侵入も警戒されている。

ここで南洋材の検疫において発見される害虫類の特徴をまとめれば次の如くである。

- a. キクイムシ類が多く、大部分は材部キクイムシ (*Ambrosia beetles*) で占められる。
- b. とくに *Xyleborus* 属のキクイムシに検疫上危険視される種が多い。
- c. ナガキクイムシ科に属する種の発見頻度が他の材種よりも多い。
- d. 材部キクイムシ類の一部にわが国との共通種が見られる。
- e. キクイムシ類以外の昆虫では重要な種は少ない。

(未完)

解 説

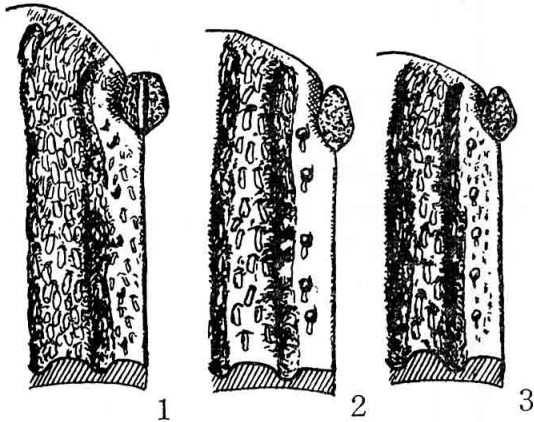
シラホシゾウムシ類3種の見分け方

森 本 桂

林業試験場保護部/昆虫第1研究室

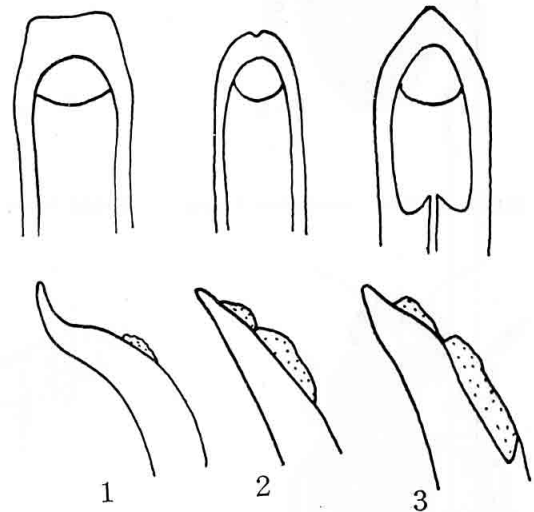
マツノシラホシゾウムシ *Cryptorrhynchus* (または *Cryptorrhynchidius*) *insidiosus* ROELOFS という種名で呼ばれてきたマツ類の害虫に3種あり今まで混同されて1種に扱われていたことが最近になって明らかとなった。これら3種は、形、色彩、斑紋などが互によく似ていて、漫然と眺めていたのでは区別できないが、ルーペまたは顕微鏡で拡大して調べ、特徴を一度正確に把握すれば、

あとは肉眼でも区別できるようになるので、その区別点をここに記して参考に供したい。



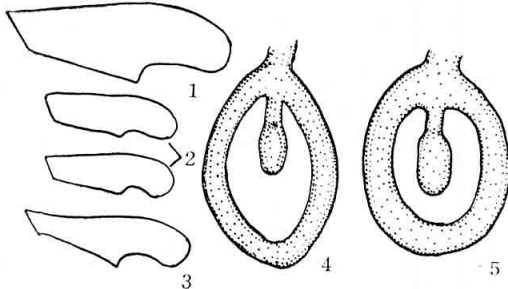
第1図 雄小楯板と翅鞘第1~2間室基部

- 1: ニセマツノシラホシゾウムシ
- 2: マツノシラホシゾウムシ
- 3: コマツノシラホシゾウムシ



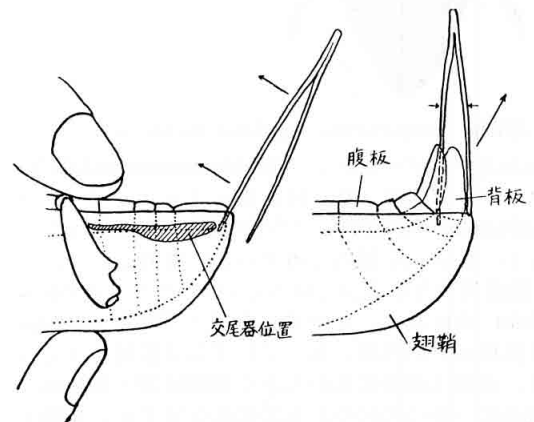
第3図 雄交尾器先端部の背面(上)および側面(下)図

- 1: コマツノシラホシゾウムシ
- 2: マツノシラホシゾウムシ
- 3: ニセマツノシラホシゾウムシ



第2図 後腿節と蛹室

- 1, 5: ニセマツノシラホシゾウムシ
- 2: コマツノシラホシゾウムシ
- 3, 4: マツノシラホシゾウムシ



第4図 雄交尾器の抜き出し方(本文参照)

## 森林防疫ニュース

## 3 種の区別点

シラホソウムシ類の3種は次の表に示すような特徴で区別できる。

和名	ニセマツノシラホソウムシ	マツノシラホソウムシ	コマツノシラホソウムシ
学名	<i>rufescens</i>	<i>insidiosus</i>	<i>pini</i>
概形	前胸の割に翅鞘が長く、全体としてやや細長い。	翅鞘はやや短かく、全体としてずんぐりしている。	<i>insidiosus</i> とほとんど同じ形である。
(1) 体長	4.9~8.2mm。大きい感じのものはたいてい本種である。	4.6~6.7mm	4.7~5.3mm
小楯板	五角形で大きく、中央に隆起条がある。	細長い菱形で小さく、隆起条はない。	<i>insidiosus</i> とほとんど同じ形である。
(2) 翅鞘	雄の第1間室は第2間室とほとんど同じ高さで、光沢ある弱い瘤状突起の列がある。点刻列は浅く、狭く翅鞘全体はなめらかな感じである。	雄の第1間室は第2間室より窪み、明瞭な小突起の列がある。点刻列は <i>rufescens</i> より強いが <i>pini</i> より弱い。	<i>insidiosus</i> に似るが、雄の第1間室の窪み方はそれよりやや弱く、突起もやや低い。点刻列は深く、間室よりわずかに狭い。
後腿節	幅広く、歯状突起のある部分から基部にむかって両縁は直線状に狭くなる。	細長く、基部近くでわずかに曲がる。	太く、歯状突起のある部分より基部にむかってほとんど同幅か、わずかに狭まるが、曲がることはない。
第1腹節の後基節間突起	丸味を帯びた三角状	丸く、半円状	三角状
(3) 雄交尾器	先端は三角状に尖る。	先端は小さく窪む。	先端は反上し、幅広く裁断される。
(4) 分布	本州から奄美群島まで分布し、福岡付近では採集できるシラホソウの7~8割、関東では5~7割が本種である。	本州から屋久島まで分布し、関東では極めて少なく、九州でやや多い。	本州から九州まで分布し、九州では山地性で少なく、関東では採集するシラホソウの3~5割が本種である。
蛹化習性	蛹室の周りにつくる馬蹄形の食痕は丸味がつよい。	蛹室の周りにつくる馬蹄形の食痕は紡錘状。	不明

注：(1) 吻が前胸腹面の溝にはまっている状態で翅端から頭部までを計った長さである。

(2) 雄は腹部の第1~2節中央部が窪んでいることで雌から区別できる。(3) 未乾燥の軟かい標本ではそのまま、乾燥して固くなっている標本では熱湯中にしばらく浸してから次の方法で交尾器を抜きだすと標本を損わずに調べることができる(第4図参照)。ピンセットの一方を腹端に差し込み、矢の方向に動かして腹部を強く折り曲げ、そのままの状態ですく差し込んで腹部背板をしっかりとさみ、内臓と背板をいっしょに引きだす。腹板がいっしょに抜けないようにするには、

その基部と翅鞘を指で強くおさえているとよい。交尾器の完全な形を知るには苛性カリの10%水溶液で煮て筋肉を除かねばならないが先端の形をみるにはその必要はない。(4) 分布は筆者の直接確認した標本によったもので、北海道に分布するのは *rufescens* ではないかと推定している。また水戸野(1936)の台湾での研究も *rufescens* である可能性がある。各種の加害部位、出現時期、個体数などは不明の点が多い。

## 種名について

この類の属名は *Cryptorrhynchus* または *Coyp-*

## 森林防疫 ニ ュ ー ス

*torrhynchidius* が用いられたが、筆者は新たに *Shirahoshizo* を設定したので、今後学名と和名を次のように統一したい。

- Shirahoshizo rufescens* ROELOFS  
ニセマツノシラホシゾウムシ
- Shirahoshizo insidiosus* ROELOFS  
マツノシラホシゾウムシ
- Shirahoshizo pini* MORIMOTO  
コマツノシラホシゾウムシ

## 参 考 文 献

- 安永・森本 (1961) マツノシラホシゾウムシとその近似種。九大農学部学芸雑誌18 (3) : 253~256, 1pl.
- 森本 (1962) 森林害虫として記録されているゾウムシ類の種名について。林試研究報告 135 : 35~46, 2pls.
- [上記別刷残部あり, 希望者は連絡されたい, 筆者]

## 調査の手引き

## マツクイムシの和名と学名

## 林 試 / 昆 虫 第 2 研 究 室

別項で説明されたように、いままでマツノシラホシゾウムシと記録されてきたものには、3種が混用されていたことが、森本技官の研究で明らかになった。しかし、幼虫の形態については、現在調査中なので、当面は幼虫の同定は不可能であるし、近い将来形態が明らかになっても、同属の幼虫を同定することは一般的でないと考えるので、

今後この属については種名を記録しないで属名を使用することにした。

カミキリムシ科、キクイムシ科についても、学名や和名が変更された種類があるので、当研究室では、下記のように統一して使用している。今後の記録や被害報告なども、これを使用したほうが好都合と思うので紹介する。

旧	新
<i>Cryptorrhynchus insidiosus</i> ROELOFS マツノシラホシゾウ	<i>Shirahoshizo</i> spp. * シラホシゾウ属
<i>Pissodes nitidus</i> ROELOFS マツキボシゾウ	<i>Pissodes nitidus</i> ROELOFS マツキボシゾウムシ
<i>Pissodes obscurus</i> ROELOFS クロキボシゾウ	<i>Pissodes obscurus</i> ROELOFS クロキボシゾウムシ
<i>Monochamus tesseraula</i> WHITE マツノトビイロカミキリ	<i>Monochamus alternatus</i> HOPE マツノマダラカミキリ
<i>Crioccephalus rusticus</i> (L.) サビカミキリ	<i>Alhopalus rusticus</i> (L.) ムナクボサビカミキリ
<i>Myelophilus piniperda</i> (L.) マツノキクイ	<i>Blastophagus piniperda</i> (L.) マツノキクイムシ
<i>Myelophilus minor</i> (HARTIG) マツノコキクイ	<i>Blastophagus minor</i> (HARTIG) マツノコキクイムシ
<i>Cryphalus fulvus</i> NIISIMA キイロコキクイ	<i>Cryphalus fulvus</i> NIJIMA キイロコキクイムシ

\* : 同属の6種類のうち、マツノシラホシゾウムシ、ニセマツノシラホシゾウムシ、コマツノシラホシゾウムシの3種を含む。



事業記録

松くい虫に対する殺虫剤  
T-7.5-2号の使用について

吉井宅男  
熊本営林局造林課



1. はじめに

松くい虫の駆除法としては、従来剥皮焼却法が実施されて来た。松くい虫の加害による被害木が変色枯死する時期は、主として8月中旬～4月の期間で、この被害木に対する主要な駆除期間は9月～3月である。この期間はちょうど火災の季節とも重なり被害木の焼却に際しては、たまたま山火事を起こした事例などもあるので、焼却法は駆除事業実行上困難な点がある。本剤はすぐれた浸透性と殺虫効果をもち、皮付のまま現地に放置される被害木の末木枝条の処理に対しては最適のものと思料されるので、熊本局管内では焼却法に代り、本剤を全面的に使用することによって駆除事業の円滑なる推進を図っている。

2. T-7.5-2号の組成成分と特性

(1) 組成成分

組成成分	BHC $\gamma$ 体	粗クレオソート	クレオソート以外の松根油	備考
薬剤名				
T-7.5-2号	0.2 %	0.6 %	99.2%	テレピン油臭を有する褐黒色油 比重 $20^{\circ}\text{C}$ で0.903~0.905 (ボーマ $25^{\circ}$ )

(2) 特性

本剤は剥皮焼却法に代り皮付のまま薬剤を被害木の樹皮の上から散布して、松根油の有する浸透性を利用し、樹皮下及び材内にBHC $\gamma$ 体を浸透せしめ、樹皮下及び材内で加害中の松くい虫を殺虫駆除するものである。

3. T-7.5-2号の使用経過

本剤を熊本営林局管内で事業的にはじめて使用したのは五島営林署部内(被害林分の全域にわたり高さ2~3mのウラジロ, コシダを主とした地

床植物が繁茂している関係で剥皮焼却法による駆除は火災の危険もあって実施が困難な地域で、昭和29年頃から使用している。五島以外の地域に対しても昭和33年頃から使用しており、現在では管内の被害木の処理に当っては本剤を全面的に使用している。因に昭和34年~36年のT-7.5-2号の使用実績を示せば次のとおりである。

薬剤名	使用年度	使用量	備考
T-7.5-2号	昭和34	5,250 缶	1缶の容量18ℓ 昭和29~33年の使用量は僅少のものと思われるが実績不明につき省略した。
〃	35	7,000	
〃	36	20,100	
計		32,350	

4. 対象害虫

松くい虫には全面的に有効であり、木質部に穿入した、マツノマダラカミキリの幼虫に対しても効果がみとめられる。なおキマダラコウモリや家具などにつくヒラタキクイムシに対しても有効である。

5. 散布対象被害部位

松くい虫による被害木の変色枯死の時期には、比較的是っきりしたカミキリ, ゾウムシ型(8月~12月)とキクイムシ型(1月~4月)の二つの型が認められるので、それに基づき夫々駆除を実施している。

夫々の場合の本剤散布対象被害部位は次のとおりである。

(1) カミキリ, ゾウムシ型の被害木

この型の被害木に対しては、剥皮困難な末木枝条(マツノマダラカミキリ, キイロコキクイムシが多数寄生している)の部分や根株に散布する。剥皮してもカミキリムシが既に木質部に穿入

森林防疫 ニュース

しておりしかもその材をそのまま現地に放置する場合はその部位に本剤を散布する。

(2) キクイムシ型の被害木

この型の被害木に対しては、剥皮した樹幹部の樹皮の部位と剥皮困難な末木枝条に本剤を散布する。

注1：カミキリ、ゾウムシ型の被害木は、伐倒剥皮により樹幹の樹皮下を加害中のマツノシラホシゾウムシ、マツノマダラカミキリ、クロキボシゾウムシ等の幼虫が外界に脱落することが多くそれらの幼虫は蟻やその他の昆虫、鳥類に捕食されるか、乾燥などのためほとんど死亡するので剥皮のみで駆除の効果をあげることもできるから、そのような場合は特に剥皮した樹皮を焼却しない。なお根株に対しては地上部は勿論、地下30cm位の深さまでは必ず剥皮することとし、それ以下の部位を食害している場合は剥皮を行なう。

注2：キクイムシ型の被害木は主としてマツノキクイムシ、マツノコキクイムシの加害によるものでこれらは新成虫が5月上旬頃から羽化して外界へ飛び出すので、駆除の期間が短い。したがって防除のためには早期発見、早期駆除につとめ、被害木は伐倒し剥皮したのちその樹皮には本剤を散布し、根株は注1の場合と同様に処理する。

6. 薬剤の使用量

立木材積 1m<sup>3</sup>分の末木枝条に対して約 3.6 l の本剤の原液を散布する。

例えば、立木材積 10m<sup>3</sup>の被害木を駆除する場合には、これについている末木枝条に対して36 l の原液を散布する。

7. 薬剤の使用法

本剤を散布するには、噴霧器又は如露を用いる。噴霧器の場合には2-4Dに使用する一字噴口を使用するのが一番効果的であり、普通の噴口ではガス状になって消えてしまう関係から薬効が減退するし又散布に際してロスが大きい。

8. 散布上の注意

本剤の殺虫力は全ての処理木に絶対的のものではなく、各処理木の水分含有量(乾燥状態)の程度によって、その効果に大いに影響があり、被害木が完全枯死の状態にある場合は伐倒直後に散布しても効果は充分現われるが、被害の程度が初期で健全木の場合に近い水分を含有している被害木は伐倒後直ちに散布してもほとんど効果がない。このような場合は伐倒後20日位経過した後(よく乾燥した後)に散布した方が効果的である。なお降雨直後に散布してもほとんど効果がないから、この点にも注意する必要がある。しかし薬剤の浸

透後に降雨があってもその効果には影響しない。

9. 薬剤の効果

本剤使用の効果については林試九州支場との共同試験の結果は次のとおりである。

(1) マツノマダラカミキリに対する効果 (1m<sup>2</sup>当り800~1000cc散布)

(イ) 材内に穿入していても未だ蛹室を形成するにいたらない状態の幼虫に対しては100%の殺虫効果を示した。

(ロ) 蛹室内老熟幼虫に対する効果

68%~84%の殺虫効果を示した。

(2) キイロコキクイムシに対する効果 (1m<sup>2</sup>当り700~1000cc散布)

(イ) 喰害甚だしく、乾燥した供試材では90~100%の殺虫効果を示した。

(ロ) 喰害やや少なく、部分により多少水分がある供試材では80~100%の殺虫効果を示した。

(ハ) 喰害少なく、水分を有する供試材では70~90%の殺虫効果を示した。

(ニ) 喰害量ほとんどなく健全木と大差ない樹皮下の状態を有する供試材では母孔内成虫に対し効果は甚だ不定で供試材により0~90%の殺虫効果を示した。(熊本営林局・林試熊本支場：「松くい虫」の浸透性殺虫剤T-7.5-2号, 3号, 4号の殺虫効果試験について, 昭和30年1月より抜萃)

10. 薬害の有無

本剤を松の生立木の樹冠から全面的に散布すると針葉の部分は薬害のため枯死する。しかし針葉以外の幹や枝は散布しても薬害はない。

11. その他

最近、松くい虫の予防、駆除剤としてT-7.5乳剤Aが新製品として発売された。これはT-7.5-2号の欠点をおぎない生立木の樹冠部に散布しても薬害がないので、庭園木または貴重な生立木のための穿孔虫予防剤として効果的な薬剤である。その組成成分と使用量は次のとおりである。

組成分	組 成 分
T-7.5乳剤A	松 根 油……………81.4%
	乳 化 剤…………… 8.0%
	リ ン デ ン……………10.0%
	松根粗クレオソート…………… 0.6%

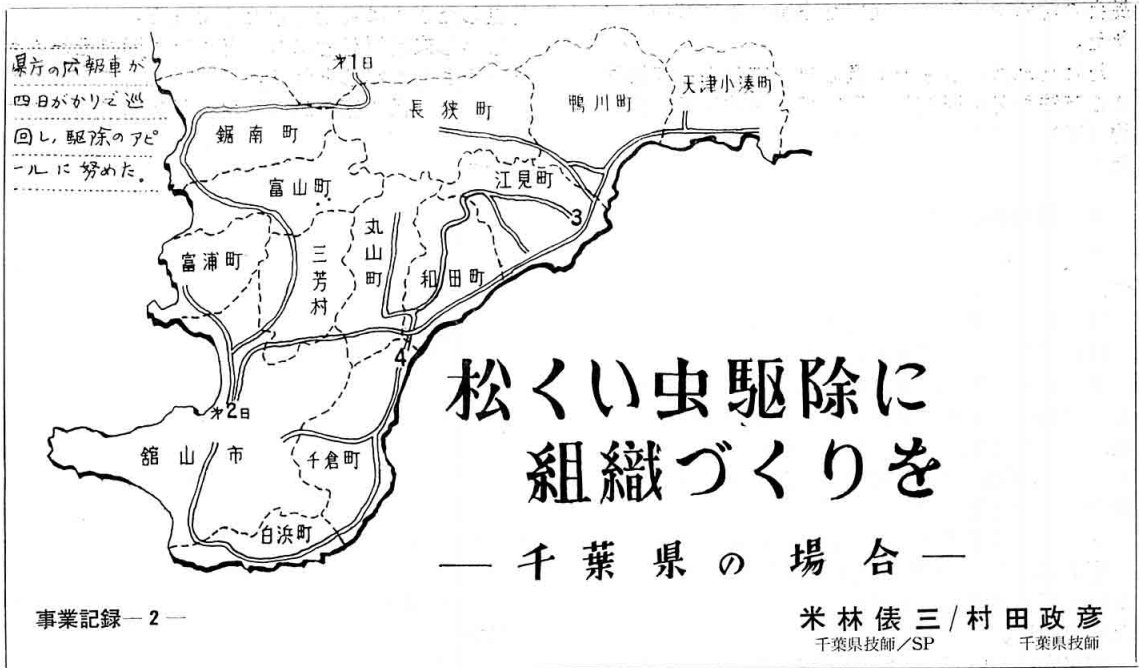
(2) 散布濃度と使用量

(イ) 予防の場合

本剤の10倍~20倍液を対象の樹木(樹冠から幹)の全体に散布する。

(ロ) 駆除の場合

本剤を皮付丸太のまま樹皮の表面に散布する。散布量は10倍液を1m<sup>2</sup>当たり400~700cc程度。



## はじめに

千葉県で、はじめて松くい虫の駆除事業に着手したのが昭和22年。以来年々松くい虫は猛威をふるい、昭和27年にはついに7,560m<sup>3</sup> (27,000石)に達したが、県下50余名の森林害虫防除員の強力な督励と、所有者自身の自覚もあって、昭和30年には一応終息したと思われる状態にまで、激減したのである。

しかしながら、昭和31年以来、暖冬異変の年、または再三おそった台風のために、海岸線の松林とくに南房総地方の海岸線にある松林に、再び松くい虫の大発生があり、昭和36年度には、前に述べたピークの被害量を一郡(安房郡)だけでも越える9,000m<sup>3</sup>に達した。松くい虫に頭を痛めておられる九州地方に匹敵する被害状態、すなわち5年生内外の松まで加害される高い生息密度になったのである。

被害量および被害程度に比べて、所有者はあまり関心を持っていなかったことは事実である。山に頼らずとも十分生活ができるし、他の副収入(たとえば花栽培)もあったためであろう。しかし国立公園である南房州の“白砂青松”のことがわがが、“白砂赤松”と言われる時は、私たちの責任も重大であり、1年も早く絶滅をさせなければと考へ、以下全員一体となって行なった駆除組織および駆除手段などの大要を記し、大方の参考に資したいと思う。

## I 組織作りまで

昭和36年の夏以来、房州地方から「松くい虫が大発生し、被害区域も拡大している」ニュースをキャッチして、担当者は今年度の対策について協議会をもって、次の事項を検討した。

- (1) 大発生した原因は何か。
- (2) 地元民の考え方はどうか。
- (3) 密度の増加および被害区域の拡大した原因は何か。
- (4) 駆除方法についての問題点。
- (5) 命令駆除か補助駆除か。
- (6) 督励の時期および方法の検討。

まず、根本的なことは、被害木所有者に強い自覚を持つように仕向けることである。そのためには、

- (1) 市町村に松くい虫防除委員会を作ろう。
- (2) 市町村はすべて委員会を支援する予算を計上してもらおう。
- (3) 部落には委員会の下部機関である実行班を設け、一人の落伍者も出ないよう相互扶助の考え方で進めよう。
- (4) 被害木の移動をきびしく取り締まろう。
- (5) 火災の危険な所には薬剤を使用し、完全に駆除させよう。
- (6) われわれも直接実行班の人々と話し合おうなどの考え方を決めたわけである。一方、出先機関では、市町村長にPRし、町村

森林防疫ニュース

長会の総意をもって、強力な支援を県に要請してきた。

われわれは、さっそく県の考え方および組織作りの方法などを通知し、別に掲げる防除委員会規約(案)によりすみやかに結成されるよう要請したのである。

II 督励のしかた

委員会の結成を12月中旬までという目標をたて、その間直接関係者の集会をもつことにした。

11月16日 安房郡下木材業者との打合せ

11月27日 郡下産業課長との話し合い

多くの被害木は、業者の手によって伐られている。問題はその後処理である。売買価格の問題、人手の問題、労務手当の問題など多く議論があったが、結論として、被害木は必ずはく皮して移動する。その後は実行班に任せることになった。

また、直接事業にたずさわり、組織作りを行なう産業課長にも、事態の急務を説き協力を要請し、あわせて予算内容と薬剤使用について指示を与えたのである。

被害木についても、県告示第456号の移動禁止については、摘発を辞さない方針を強調した。

安房郡下の駆除量は別表に示したとおりでであるが、重点区域(被害の多い市町村)には県の督励班が出向き、町村役場に全実行班長を集めて規約の審議、松くい虫の生態ならびに予算計上について協議した。

昭和35、36年度駆除量 (千葉県安房郡)

市町村名	35年度		36年度		増加率	
	本数	材積	本数	材積	本数	材積
三芳村	82	72	378	392	4.6	5.4
富浦町	9	9	73	42	8.1	4.7
富山町	—	—	122	187	—	—
鋸南町	8	5	24	23	3.0	4.6
白浜町	11	5	119	42	10.8	8.4
丸倉町	67	80	470	472	7.0	5.9
山田町	140	175	2,622	1,751	18.7	10.0
和見町	1,284	753	4,465	1,780	3.5	2.4
長狭町	25	31	487	355	19.5	11.4
鴨川町	11	11	13	21	1.2	1.9
天津小湊町	11	24	100	112	9.1	4.6
館山市	26	9	357	180	13.7	20.0
計	24	37	525	205	21.9	5.5
計	1,698	1,211	9,755	5,562	5.7	4.6

参考までに日程および町村をあげると

日程	12月11日	12月12日	12月13日
第1班	丸山町	和田町	鴨川町
第2班	三芳村	千倉町	江見町

以上の町村において、多くの意見が交わされ、悲観的だった考え方や、無関心の人も、大いに考

え直したように判断できたのである。

しかし末端所有者には、どういう形で伝わるかということが案じられる。

そこで、県の広報車の利用も予定していたのでせつかく結成された松くい虫防除委員会を一層強力にすべく、次の日程で、個々の部落まで入って強力な駆除を呼びかけたのである。

なお、広報車の日程が少ないので1万枚のリーフレットをあらかじめ各戸に配付して、事前にPRを実施し関心を高めておいた。

III 予算措置および薬剤の配付

このような呼びかけをしている中で、所有者の防除意欲も、かなり向上してきたように判断され、全面的駆除が行なわれた場合の補助施策が問題となってきた。

一方県議会においても、この対策について質問があり、事務担当者の手によって計算がなされた結果は、とうてい国庫補助では不足であり、重なる予算折衝の結果、次のような純県費を支出することになった。

総事業量	7,130m <sup>3</sup>
要補助額	3,335,000円
内純県費	1,893,200円

このようにして200万円に近い県費を投じた駆除費の中で、特に火災の危険性がある地域に対しては、次のとおり薬剤駆除を実施してみた。

薬品名	T-7.5-2号
使用量	309缶(1缶18ℓ入り)
要補助額	496,845円

IV 実地督励および要請書

別に記載をした「松くい虫防除委員会規約例」第10の4に強調期間が定められたが、主として1月20日から2月5日の間が多いので、県係員が、問題のある業者および所有者に直接会って督励すべく、現地に派遣された。この場合、問題のある所有者などに対しては特に定めた別記「要請書」を手渡すことにしてみた。

市町村役場または現地の森林害虫防除員から依頼のあった数件の問題点について、直接所有者に会って話し合いの中で、所有者の要望や、虫に対する考え方など多くの参考事項も多いが、雑感的になるので次稿にゆずりたいと考えているが、ほめられたり、叱られたりの数々の中で、次代の駆除に対する構想が考えられた。

む す び

このようにして、県史最高と思われる松くい虫大発生に対し、県、農林事務所、市町村、防除委

## 森林防疫ニュース

員会役員、実行班および木材組合という組織が一丸となった防除対策をたて、特に問題があると考えた実行班の人々には、広報車、有線放送、新聞紙上を通じて大いにPRしたので、松くい虫の密度をかなり低くしたと考えているが、今後の気象条件または微害(後食程度)として残したマツなどによって、いつまん延してくるか油断はできない。

3月26日付けの県下向け農事放送の際「これからの森林病害虫対策」と題して、松くい虫駆除に一層の組織強化と早期駆除を強調したが、再び「白砂赤松」の汚名が残らぬよう努力を続けたいと考えている。

最後に、この事業が完了される間、終始協力を頂いた防除委員会役員をはじめ関係各位に心から感謝申しあげ本稿を閉じたい。

## 松くい虫防除委員会規約(例)

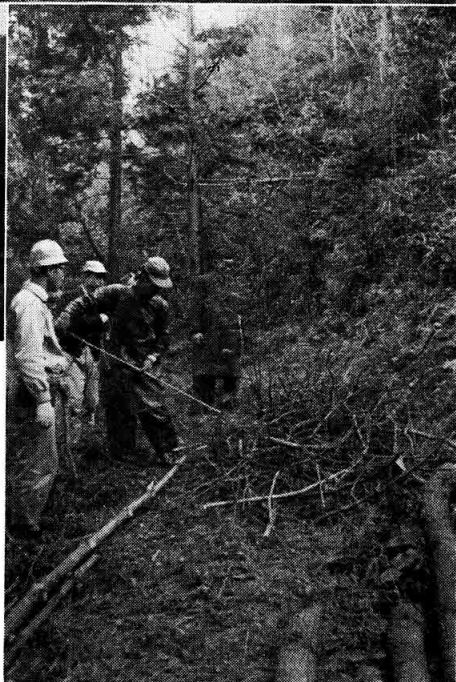
- 第1 本会は〇〇市(町村)松くい虫防除委員会と称し事務所を〇〇市(町村)役場内におく。
- 第2 本会は松くい虫防除実行班長、森林所有者の代表、森林組合長、農業協同組合長、市町村長(職員)ならびに県職員その他学識経験者をもつて組織する。
- 第3 本会は松くい虫による被害木の徹底防除を行ないもつて森林の保全を図ることを目的とする。



左上/実行班を囲んでの話し合い  
左下/海岸線被害木の駆除状況

右上/巡回中の広報車  
右下/薬剤駆除作業

「事業記録」という区分を設けました。じっさいに事業をやってみたら、この点はうまくいったが、この点は失敗だった……そういう経験が積みかさなって、森林防疫事業は進歩していきます。事業の記録をお寄せください。(係)



森林防疫ニュース

第4 本会は第3の目的を達成するため防除実行班を督励し松くい虫による被害立木の調査ならびに防除に必要な措置又は広報宣伝その他必要な事業を行なう

第5 本会に次の役職員をおく

会長 1名 副会長 名  
委員 名 書記 名

第6 本会の会長は市(町村)長とし副会長は森林組合長,又は〇〇とする。

第7 本会は防除の徹底を期するため各部落に防除実行班をおく。

第8 防除実行班に班長1名副班長〇名推進委員若干名をおく。

第9 実行班は部落内全森林所有者をもって構成する。

第10 実行班は防除の徹底実施を図るため次の事業を行なう。

1. 実行班の役員は防除委員会の指導を受け森林所有者毎に啓もう督励し防除の徹底を図る。
2. 被害木の所有者が自ら実施できないときは被害木所有者の了解を得て代行する。この場合実際に伐採

し処理するに要する労力を予め確保しておくものとする。

3. 実行班は森林所有者の希望により処理後の木材の処分を森林組合もしくは木材業者等にあっせんする
4. 実行班は特に次の期間を強調期間と定め防除を実施する。

月 日～ 月 日

5. 事業完了後は速かに委員会に連絡して森林害虫防除員の確認を受けるものとする。

要 請 書

昭和37年 月 日

殿  
千葉県農林水産部林務課長  
小川 重平

あなたの 地先にある枯損  
木 本は、松くい虫による被害木です。  
今後周辺の森林に及ぼす影響は甚大であります  
ので森林の保全上、速かに伐倒のうえ完全な駆  
除をするよう要請します。

事業記録-3-

松くい虫駆除の機動班について

一鹿児島県の場合一

脇 野 透 三  
鹿児島県治山課保護係長

1. はじめに

現行法の範囲で機動的に早期駆除を行なう一つのテストケースとして、本県では昭和36年度の12月、追加予算において松くい虫駆除機動班の設置が予算化でき、この1月から発足した。

2. 目 的

松くい虫の被害のうち、所有者不在または採算のとれない小径木、点在する孤立木、足場の危険な場所等は放置され、これが、被害まん延の拠点となっている。特に最近の農山村の労務者不足と賃金の高騰は、現行予算だけでは防除の徹底が期せられないので、県が卒先して、機動力、機械力によって一斉駆除の牽引力となる「機動班」を設置して、早期駆除の徹底を期するものである。

3. 機動班の構成

機動班の構成は、自動車(ジープ)1台に4個班分のチェーンソー4台、手斧20丁、皮はぎ器20丁、鋸16丁、消火器4個のをせ、チェーンソー人夫1名

にはく皮集積焼却作業人夫4名をもって一班とした。被害調査と、伐倒玉切りに必要な駆除承諾の折衝は、作業開始前日までに先事務所を終えた。

4. 予 算

昭和36年度12月追加予算  
施設費(ジープ)1200千円、備品費580千円、燃料費161千円、賃金265千円、旅費143千円、保険料修繕料等33千円、計 2,382千円

昭和37年度予算

賃金1,109千円、旅費300千円、燃料費400千円、修繕料45千円、備品費20千円、保険料76千円、計1,950千円。運用については、森林保護費34,582千円に含め、森林害虫防除事業と併行運用した。

5. 運用法

駆除の基本はあくまで現行駆除法を推進し、最終的に伐倒、玉切を援助しなければ駆除が期せられないものについて、駆除を補足して早期駆除を進める。

現行駆除法は、囃喉、始良、肝属、薩摩、出水郡

## 森 林 防 疫 ニ ュ ー ス

鹿児島郡吉田村、鹿児島市等県下の約6割が農林大臣の命令地区。離島の大島、熊毛郡が補助地区で日置、川辺、揖宿郡と鹿児島市の一部が県知事命令地区になっている。9月1日～10月末日までと、1月16日～2月15日までを命令期間として重点的な一斉防除を実施した。

命令期日の前は補助による防除、命令期間を過ぎてからは直営駆除を行なう。

命令の場合は、被害調査の結果によって命令書を通達する際、10～15日間の期限を設けて駆除措置を指示し、その際に指定期日までにどうしても駆除できない見込みの場合は、森林組合等が被害木を買い上げる。林産事業を行なっているときは組合が駆除までをすぐに行なう。林産事業を行なっていない地域は直営駆除班を設置し、駆除班が準備作業（伐倒、枝払、玉切）と駆除措置を行なうよう、そしてその経費は現金で支払うが、立木を渡し、立木代金から所有者負担金を差し引かれても異議ない旨の承諾書を事前にとって、駆除班が駆除を推進してゆく。

もちろん、採算のとれるものについては木材業者、製材業者が駆除を条件に買いつけしているので、この分については指定期日以内に完全な駆除作業を行なうよう指導、督促し、駆除させる。

従って機動班の対象となるのは、公有林を除き不在地主、作業能力、雇用能力のないもの、地利的に自動車道までの距離が遠い、または傾斜が急で作業の困難なもの等であって、駆除能力があり駆除を怠けるようなものについては木材業者と同様、あくまで駆除命令の実行を督促し、機動班の対象とはしない。

また、作業能力はないが雇用能力のあるものについては機動班か、森林組合が代行して、所要経費は徴収し、正直者が馬鹿をみるような、または逆に放置して機動班に依頼心を起こさせて一斉防除のマイナスにならぬよう注意することが、運用上もっとも肝要な点である。

機動班の運用については、県治山課が主管し、各農林事務所の派遣申請について、所有形態所有者の駆除能力、樹齢、作業の難易等を勘案して駆除順位を決定通知する。機動班の工期は1日12m<sup>3</sup>を基準とし、チェーンソー人夫1人1日800円と、はく皮焼却実費と正常費用405円との差額は、実績報告書に基づいて農林事務所に令達し、事務所が支払う。

### 6. 中間稼働状況

発足当初は、機械器具の購入整備に手間どり、また取扱いの不馴れ等で、計画どおり稼働できなかったが、現在はおおむね軌道にのり、順調な活

動を続けている。

法定伝染病で人命に大きな損害を与えるような場合、経費は度外視しても被害まん延を期すると同じように、松くい虫の被害についても、慢性的な被害まん延を続け、多年の間に大きな損害を与えるとすれば、駆除費は多少増大しても、重点的な防除によって大きな効果を短い間にあげられるならば、収支は償えるものと思う。

2月末までの中間の稼働状況を見ると、補助金1m<sup>3</sup>当たり405円の補助金額を含まない経費は、1m<sup>3</sup>当たり597円を要しているが、これにはジープとチェーンソー機械類の原価償却費をみていないもので、1月18日からわずか35日間の短い稼働実績によるものであるから、年間の稼働（機械類）についてはそれぞれの耐用年数で計算すれば、それほど高くはならない。予算要求資料として積算したものと実際運用上の間に大きな誤差はないようである。

### 7. む す び

昭和37年度には、年間180日位の稼働日数で約2,200m<sup>3</sup>の駆除を行なう計画であるが、これは年間県下被害発生見込量27,000m<sup>3</sup>の8%に過ぎないので、防除の基本方針はあくまで、森林所有者の病害虫に対する積極的な関心を高め、林業経営による長期防除対策を進め、天敵愛護による生態的防除と、直接的には、部落一斉の共同防除を推進し、機動班による防除は駆除のおくれを補足して歩調をそろえた一斉防除の気運を盛り上げることを期している。

### 《参 考》

#### 松くい虫駆除機動班運用要領

#### 第1 目 的

この要領は、松くい虫被害のうち、所有者不在の被害木又は、点在孤立する幼齢木等できりかえし命令の履行を督促しても、駆除能力がなく、最終的に伐倒、玉切を援助しなければ駆除作業が期せられないものについて、駆除を促進するよう松くい虫駆除機動班（以下「機動班」という。）の効率的な運用を図ることを目的とする。

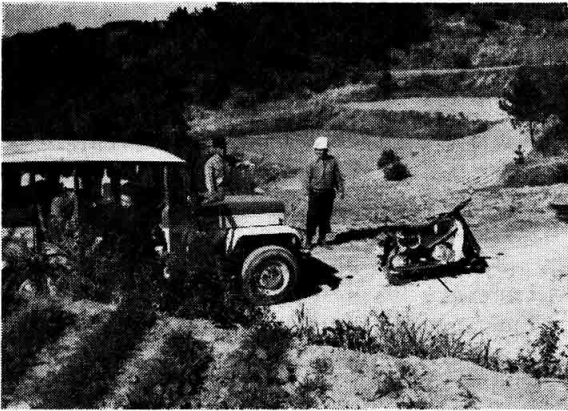
#### 第2 機動班の構成

機動班の構成は、自動車（ジープ）、チェーンソーその他必要な器材及びそれに必要な人員をもって構成する。

#### 第3 運用方法

1 松くい虫の駆除については、命令した者に対し、極力命令後15日以内に駆除させることを原則として指導督促し、不在地主その他で万やむを得ない事情のため、駆除できない者に限り「機動班」によって伐倒、玉切作業を促進する。

2 はく皮、焼却人夫賃は、予算の範囲内によって示



機動班の先導によって現場到着



チェーンソーによる被害木の玉切り

される。松くい虫防除事業執行計画の被害立木直営  
駆除賃金によって支弁し、はく皮焼却に要する必要  
な人夫は、所管農林事務所（以下「所管事務所」と  
いう。）において雇い上げるものとする。

3 機動班要員として伐倒玉切作業に従事する人夫は  
チェーンソーの使用できる経験者を雇いあげるもの  
とする。

4 これらに要する賃金は、別途合達し、所管事務所  
において支払うものとする。

第4 運用基準

1 機動班に依頼する被害の対象は、所有形態、所有  
者の駆除能力林齢（樹齢）、地利級、作業の難易等  
を勘案して定める。

2 農林事務所長及び農林出張所長（以下「事務所長  
」という。）は、次項の基準に基づいて市町村又は  
森林組合ごとの事業量を決定し、各期駆除命令開始  
後15日までに治山課あてに実施計画書（別記第1号  
様式）を提出するものとし、追加の必要がある場合  
は即時変更計画書を提出するものとする。

3 治山課長は、予算及び機動班の作業能力等を勘案  
し次の査定係数をもって各事務所ごとの駆除事業量  
及び駆除順位を決定し通知する。

- (1) 機動班の行なう伐倒、玉切作業の功程は、チェ  
ンソー1台（人夫1人）1日3㎡を標準とする。
- (2) 駆除順位の査定係数は次表のとおりとする。

ア 所有形態

適用種別	係数	備	考
公有林	0		
部落（共 有）林	5		
私有林	10		

イ 所有者の駆除能力

適用種別	係数	備	考
不在地主	30	不在地主で管理者に作業能力のない もの	

作業能力の ないもの	15	作業能力、雇傭能力ともないもの
その他 のもの	0	

ウ 林 齢（樹 齢）

適用種別	係数	備	考
1 ~ 5	40		
6 ~ 10	35		
11 ~ 20	25		
21 ~ 30	20		

第1号様式 昭和 年度 期松くい虫駆除機動班による  
駆除実施計画書（略）

第2号様式

承 諾 書

昭和 年 月 日 農林大臣  
知 事 から駆除命令され

た私 所有の 市 町 大字 番地の松の樹  
管理の 村

約 立方メートルの松くい虫駆除措置が  
の理由によって実施できなかつたので、松くい虫 駆除  
機動班に駆除を依頼します。

なお、現場案内ならびに立合の要請及び伐倒、玉切  
についてはいっさい異議ありません。

住 所  
氏 名

㊦

エ 地 利 級

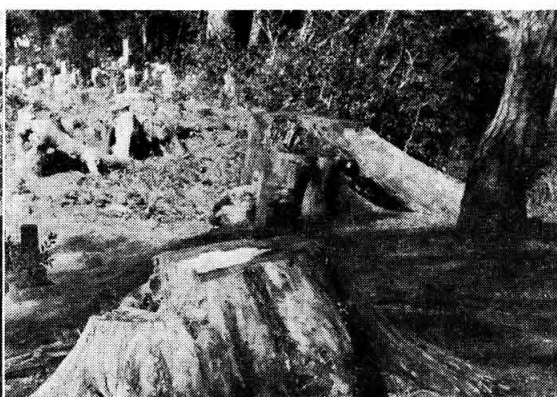
適用種別	係数	備	考
上	0	自動車道までの距離	500m以内
中	5	〃	500~1,000m
下	10	〃	1,000m以上



森林防疫 ニュース



被害枝をつみ重ねて焼却する



根株を焼却した跡

ホ 作業の難易

適用種別	係数	備	考
易	0	傾斜 15度未満	
中	5	〃 15度～30度	
難	10	〃 30度以上	

☆ 事務所長は機動班が作業を開始する前日までに被害調査、駆除承諾折衝（別記第2号様式）を必ず終えるものとする。

第5 報告

事務所長は駆除完了後10日以内に実績報告書（別記第3号様式）ならびに予算令達要求書を治山課あて提出するものとする。

第3号様式 昭和 年度 期 月分松くい虫駆除機動班事業実績報告書（略）

松くい虫駆除機動班による防除事業の注意事項

- 書類整備ならびに実績の記録について
  - 作業責任者は当日の作業終了後、様式第1号による作業日誌に所定事項を記入し、監督者の検印を受けること。
  - 管内の作業を終了し、機動班が本庁に帰任するときは、上記作業日誌の内容を集計し、様式第2号の所定事項を記載した作業速報を治山課に提出すること。
  - チェーンソーの入夫については、各事務所で就労票使役原表を整備すること。
  - 機械、器具類の貸出し返納ならびに燃料の受払いはすべて上記作業速報に記載し整理する。
- 労働安全規準について
 

機動班は機械類を使用し樹木の伐倒を行なうため危険を伴い、注意を怠ると重大災害の発生も予想されるから、作業責任者は就労者に下記事項を遵守させ極力災害の排除に努めること。

  - チェーンソーの始動前の点検、整備を確実にこなうこと。
  - 斧、鉞、皮はぎ器等の点検、整備を行ない、不良

工具による危害防止に努めること。

- チェーンソーの操作、足場の悪い場所の作業など危険作業に婦女子または18歳未満の労務者を就労させないこと。
  - 伐倒する樹木の周辺（伐採木の樹高×1.5の半径以内）にはく皮、集積、焼却入夫の立入りを厳禁する。  
なお、伐倒直前の合図を怠ってはならない。
  - 伐倒作業は、あらかじめ足場周辺を十分整理し逃げ遅れ、転倒等による災害をひき起さぬよう努力しまた必ず安全帽を着用すること。
  - 伐倒時の受口は伐根径の $\frac{1}{2}$ 以上を切り付け、付近の小径木で懸り木の懸念あるものは事前に除去すること。
  - 足場の悪い急傾斜地の作業は必ず命綱を使用すること。
  - 就労者は足ごしらえを十分にし、特に素足の就労を禁止する。
  - その他作業責任者は常に災害防止について就労者の教育と監視を怠ってはならない。
- 火災予防について
 

このことについては特に注意し失火のないよう下記事項を厳守すること。

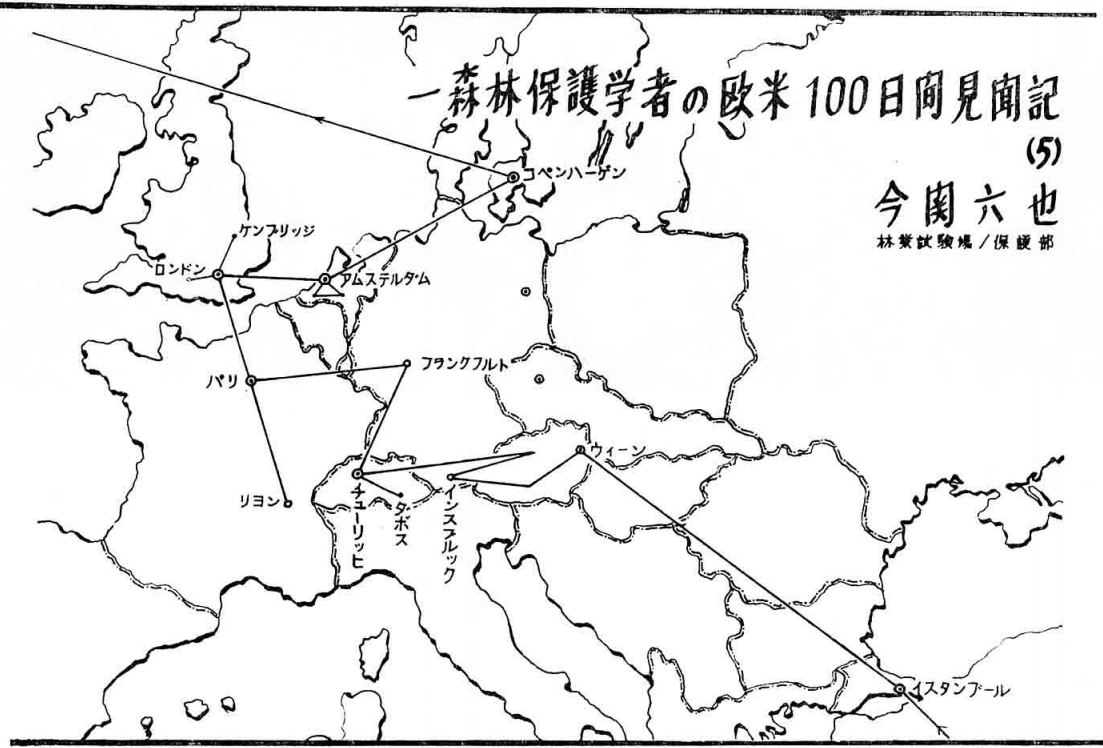
    - 自動車（ジープ）内はガソリン等引火性危険物を積載するから車内において煙草の喫煙等火気の使用を禁ずる。
    - 現場においてもガソリン罐の付近で火気を使用してはならない。
    - 枝条の焼却に当たっては必ず直径2m以上の穴を掘り、この中で極端な焰が上らない程度に徐々に焼却し、終了後は水や土砂によって完全に消火すること。
    - 消火器は必ず現場に携行し、使用法は就労者全員に良く知らせておくこと。
  - 機械器具類の盗難防止について
    - 盗難防止については、点検を作業終了後は必ず行ない特に現場移動時の点検には注意すること。
    - 機械器具類は必ず携行し自動車内又は山林道路等に放置してはならない。

# 一森林保護学者の欧米100日間見聞記

(5)

## 今関六也

林業試験場/保護部



### 11 イギリス

#### a. ロンドンに着いて

—イギリス人のゆとり— 日本食の非国際性

10月14日のひる頃ロンドンの空港におり、前の総務部長恩田芳彦氏にあたたかく迎えられた。そして2週間ぶりで日本語をつかった。同じ日本人でも林業試験場でいわば同じ釜の飯をたべた間柄は格別である。パリとちがって、ロンドンの生活はこれで大船にのった気持ちでいられるとホッとした。

この日は10月のロンドンには珍しい快晴でもあり、時刻も早いので、午後は観光案内をしようとのご好意に甘え、恩田さんの車で郊外のウィンザーに行く。ロビンフッドの物語に出てくるような昔ながらの王城を見物する。あいにく土曜日で、エリザベス女王が静養に来られており、室の中は見られなかった。

イギリスの名門の子弟が学ぶというイートン・カレッジ（ここの生徒の制服はモーニングで、伝統を大切にしているイギリス人かたぎがしのばれてほほえましい）、テムス河の水をひいた美しい庭園がある宮殿ハンプトンニュートとか、かつて狐狩りをしたという物すごく広い公園などをドライブし

て夕刻ロンドンのホテルについて。恩田さんのおかげでイギリスの第一印象はまことにすばらしかった。

この酷しい国際情勢の只中であって、平和の維持と国力の増進のために汗みどろの努力を傾けなければならない時に、中世紀さながらの王城とか型式ばった儀仗兵とか、牧歌調豊かな広々とした自然公園などは、ロンドン市民、イギリス国民の心のよりどころでもあり、慰安の糧ともなるのであろう。そこに理屈を超越した温かい人間味があり、またそのようなゆとりのあるイギリス人は大人であるとしみじみと考えさせられるのであった。そして、この大人であるということは、イギリスの自然科学の研究の面でも気づくのである。

その晩、恩田さんの案内でロンドンにたった一つあるという日本料理屋でご馳走になった。約50日ぶりでたべる米のめし、刺身、テンプラ、みそ汁、つけ物の味は忘れられないものである。日本料理はその後アメリカで2、3度たべた。

どこでも感じることであるが、中華料理は世界中にひろまっている。実に国際的である。アメリカの日本料理店には外国人も大分来ているが、ロンドンでは日本人だけが得意であった。日本料理の持ち味には日本人でなければわからないよう

な良さがあり、それが、また日本の良さでもあるが、もっと国際的な感覚で、宣伝、普及されてもよいものと思う。

旅行中、米がたべたい時は支那料理屋に入った。ところが支那料理の米はわれわれのいう外米であり、味がちがうばかりでなく香りもちがう。日本人の口にはあわないものであるが、日本米が日本人にだけ好かれている限り、日本の米は特殊の米である。いいかえれば、日本の米は、世界的に見るならば市場価値がもっとも低いつまり安い米なのである。

ところが、日本の米の生産費は世界でもっとも高いのである。高い生産費をかけて最も安い米をつくるところに、日本の問題がある。このような米は欧米でも東南アジアでもあまり栽培していない。従って、日本はいかに国がせまくなり、いかに人口がふえても、米という主食は国内で生産しなければならぬという酷しい宿命を背負わされるのである。

日本食に国際性をもたせ、日本米の味を外国人になじませることによって、日本米の国際的価値を高めるか、日本人が自分の食生活を改善し、パン、めん類、肉類、牛乳および乳製品、つまり脂肪、蛋白をたくさんとり、米に依存する量をへらし、ひいて日本米の必要量を今よりもはるかに少なくするか、ここに重要な政治の指導方針があると思う。

米の生産高の目標量をもしも2割へらすことができるならば、水田面積もそれだけ減らすことができ、その土地を畜産に、林業に、工場敷地に、道路の拡張に、いろいろと活用できることであろう。人口問題と食糧問題の発展的解決は日本の将来の発展のために最も重要であると考えられる。外国で中国料理をたべ、日本料理店に入り、自動車の波を見、あらゆる機会に日本の人口と食糧の問題が関係していると考えたので、この機会にあえて駄弁を弄した次第である。

#### b. イギリスの林業試験場を訪ねて

—お茶時間の効用—

ウィーンの会議で所長のMr. T. R. PEACE (樹病学者)と10月16日に訪ねる約束をしておいた。ロンドンに着いたら恩田さんあてに林試の所在地 Bentley 行きの汽車の時間が連絡されていた。

10月16日 10時ウォーターロー駅から汽車にのる。古いがん丈な汽車、乗客はきわめて少ないので、これで採算がとれるかと人ごとながら気になる。1.5時間ほどでベントリーに着く。田舎の寒村である。駅には戦前買ったとかいう古めかしい自動車が私のために待っていた。迎えた人は古い

車でと肩をすぼめていたが、古いものを大事にするのもイギリス人だからであろう。

林試は200年生ほどの *Quercus* の林でかこまれている。建物は1959年に新築された。木造の2階建だがあまり大きくない。PEACE 所長にあいさつしてまず昆虫の室に案内される。研究者は3人ぐらい。D. BEVAIN 氏に会う。氏はハバチに興味をもっており、欧州大陸から輸入したカラマツ (イギリスにはカラマツはなかった) に、大陸になかった新しいハバチが発生したとって不思議がっていた。

彼に藍野、伊藤氏共著の病虫害図鑑を見せたところ、日本林業の病虫害に関する関心が深いのに驚き、自分も一冊ぜひほしいとっていた。この本はなかなか好評で、数名の人から所望された。私は、この本を自分の話の材料に (学名を見たり)、日本林業の宣伝のために、日本の印刷技術の紹介のために、いろいろな意味をふくませて見せて歩いた。

昼食を PEACE 以下、数十名の所員と共にする。食事時間は12.30~13.30。

食後ピース氏の案内で場内をひとめぐりする。場内では特に印象に残るものは見られなかったがここでもポプラの品種をたくさん集めていた。どこもポプラブームである。

樹病研究室では Dr. R. G. PAWSEY と1時間ほど懇談した。話題はナラタケ病、ネマトーダ病、*Fomes annosus* の被害、*Keithia thujina* による *Thuja plicata* の病気などであった。ナラタケ菌による心材腐朽の美事な標本を見せられたのが印象的であった。

欧米の大学や研究所では、ほとんどどこの国でも10時と3時には、研究者や教授連は集まってお茶 (コーヒーか紅茶) をのむ。ここの林業試験場ではベルの合図が鳴った。よほどいそがしい実験をやっていない限り、お茶の時間を楽しんでいる。私も訪問客としていつも誘われ、そこで大勢の人に会った。専門外の人にも会い、日本の植物学者、海藻や蘚苔や地衣学者の話も出たりして知己をひろめることになった。

ちょっと見ると怠け者のように思われるかも知れないが、朝は8~8.5時から夕方5時まで、お茶と昼食の時間を除いては、きわめて几帳面に働らく彼らにとっては、これは適当なリラックスマであり、仕事にけじめがついてよいのだろう。

しかし、私は私なりに、この習慣はなかなか味わうべきものだと思った。この時間に専門のちがう研究者が顔をあわせ、単に親しくなるだけでなく、雑談のうちにお互いの仕事を理解しあい、また門外漢から有益なヒントが与えられたり、共同

研究のチームワークが生まれるのではないだろうかと考えたからである。この時を利用して、研究部長から場の方針とか研究上の計画だとかの話をすることもあった。みんなは机に腰をかけ、コーヒーをのみながらそれを聞いていた。

専門外のことや、人の話を聞く時間が惜しく、1分の休みもなく細かい仕事に熱中することも結構であるが、とかく視野の狭い研究者になる。雑談の効用もあながち棄てたものではない、というよりも、そのくらしいゆとりがなければ、大きな研究はできないとさえ感じるのである。

日本人は実によく働く。たえず物に追いかけられてるように働くが、その割に能率があがらないようである。もっともこれは自分自身のことをいっているのであるが。絶えず緊張をつづけることはできないので、絶えずリラックスを求めていることになり、かえって能率があがらなくなってしまふのであろう。

働きすぎと視野の狭さとは日本人の一つの欠点のような気がした。帰ってから、これを実行して見たかったが、帰って見ればもとの空阿弥で、やはり旧態依然たる自分にもどってしまった。

このお茶は各人の負担で、アメリカ・カナダでは一杯10セントずつ盆の上にのせていた。

### c. Kew の Royal Botanic Garden

—いながらにして世界の植物を知る—

ロンドンの西南部、Surrey州の Kew にある。テムス河の東岸に沿い、広さ 120 ha の敷地をもち、植物園の中には、図書および腊葉標本館、応用植物博物館、植物研究所が設けられている。

今から 200 年前、1757年に創設された植物園には、現在 25,000種の世界の植物が純・応用植物学的目的をもって植栽されている。またこの腊葉標本館は膨大な数の世界の植物標本を蒐集整理保存してある。だから、Kew はその完備した植物学図書と共に、世界の植物学者にとってメッカともいべき所である。

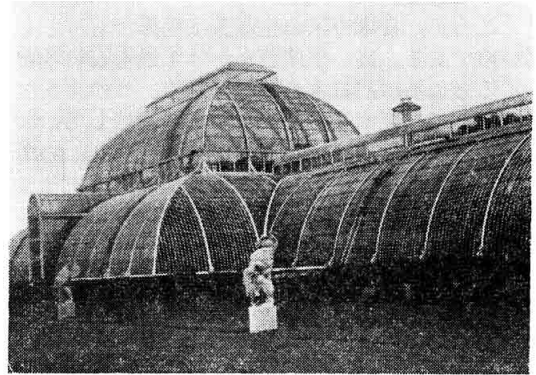
私のイギリス訪問の第一の目的は実にこの Kew 植物園をたずねることにあった。遺憾ながら滞在期間が10日間しかなかったので、Kew のためには3日しかあてることができなかった。許されるならば私はここに少なくとも3~6カ月を過ごしたかったのである。なぜならば3~6カ月の Kew での勉強は、日本の菌類の研究のために10年の進歩を約束することになるからである。

10月18日、ロンドンから2階バスで Kew に行く。このバスは2階にのると煙草が吸えるばかりでなく、観光にはもってこいである。

標本館—herbarium—は植物園の外にある。世

界的に貴重な学術標本の宝庫なので管理は厳重であり、玄関には鍵がかけられ、内部では一切禁煙である。

標本室内は腊葉戸棚でブロックに仕切られ、その間に机がおかれ、多数の内外の研究者が静かに研究していた。私にも一つのブロックがあてがわれた。Dr. R. W. D. DENNIS, Dr. D. A. REIDらの好意により、自由に文献や標本を見ることができたが、膨大な標本を片端しから見ることはとても不可能で、日本およびアジアに関係のある標本



Kew 植物園のヤシ温室

の一部を大急ぎで見るとどまった。それでも、幾つかの重要な疑問を解決することができて嬉しかった。

もっと若い時に、ここで半年ほど勉強することができたなら、日本の菌類フロラの研究にどれほど貢献することになったであろうか。なんとかして若い菌学者を送りたいものであると痛感する。今のままでは、日本の菌類研究は100年河清をまつといったはかない光明しかない。そしてそれが日本の農林業のために、どれほど不幸であるかは知る人ぞ知るである。

DENNIS博士の案内で園内をざっと見学した。数多くの温室のうち、Palm House (ヤシ室) と Temperate House (暖帯植物温室) は特に大きい。Palm Houseは長さ120ヤード、幅は100ft~50ft、高さ66ft~30ftで、ココヤシも自然の大きさに育てている。この温室が建てられたのが1848年であるから、今から115年ほど昔である。日本の江戸時代に、これほどの大温室がつくられ、世界の熱帯植物を蒐集栽培しはじめたのである。

Temperate Houseは1866年に着工、1899年に完成した。長さ604feetもある大きな温室である。これらはほんの一例にしかならないが、園内に植えられている植物とともに、イギリス人は居ながらにして世界の植物について、実物を見、学ぶこ

とができるのである。彼らの視野の広さというものは、こういふところからも養われるのである。日本の学問も技術も今では見かけ上は世界的なレベルに達している。さらにこれを飛躍させるためには、基礎の深さと、視野の幅をもつことが必要である。いな、そこに日本の文化の盲点があるといえよう。

最後に、この世界的な植物研究の殿堂が、イギリスの農林省の所管であることを付記しておきたい。真に農業、林業の技術の向上を望むならば、単に目先きの膏粱ばりの研究だけにとらわれず、基礎一すなわち目的基礎研究の充実強化に対してさらに基礎研究に対して日本の農林省がもっと力を注がねばならないことを希望してやまない。



温室の中で Dr. Dennis

#### d. Common wealth Mycological Institute 英連邦菌類研究所

—分類学の社会性—

Kewの標本館の隣りにある。Common wealthの研究所のことについては、スイス紀行のところで、紹介しておいた。Kewにあるのはその一つの菌類研究所である。

研究所は、地球上の各地にある英連邦における農作物、森林植物の病害の病原菌の分類同定についての研究を行なっているのである。

いうまでもなく、病虫害の防除はその正確な診断、すなわち病原菌や害虫名の正確な同定を基本としてはじまるのである。ところが病虫害の正しい診断は菌類および昆虫類の分類学的研究がなければできないのである。ところが菌類といい、昆虫といい、いずれも地球上の生物の中でもっとも複雑でその種類はそれぞれ数十万にもものぼる、生物界で最大の分類群なのである。したがって、これらの分類同定を正確にし、また未知の種類を明らかにするために、それぞれ30ないし数十名の専

門家をかかえていなければ不可能である。しかもその背後には、既往の研究の資料となった世界各地の標本と文献を網羅する図書館をもっていなければならない。

このようなことを、英連邦の各国がそれぞれ本国にもつことは容易ではない。そこで各国が協力して、これらの条件を満たす最善の場として菌類研究にはKewを、昆虫についてはロンドンのBritish Museumをえらび、それぞれ Commonwealth Mycological Institute および Comm. Entomological Inst. を設けたのである。

このようなわけで、ここの菌類の分類研究所は英連邦の農林業の病虫害学者の為に分類学的協力サービスをすることを目的としてつくられたものである。所長には会えなかったが、Dr. F. C. DEIGHTON, Dr. C. BOOTH, Dr. SUDTONなどと話をした。この人たちが彼らのおかれている立場をよく理解し、サービス精神に徹しながら、しかもきわめてすぐれた分類学的業績をあげているという研究態度には敬服せざるをえなかった。そして私はここでも英国人の国民性の特色を見出したのである。個性を生かしながら、社会の一員としての幸福に寄与するという大人の考え方である。

この研究所ではReview of Applied Mycologyという雑誌を編集している。世界各国から発表される菌学および応用菌学の文献の抄録集である。月刊ですでに30余年を経ているが、このReviewが世界の病理学界、菌学界に果たしている貢献はきわめて大きいものである。しかもそれが、2—3の助手を使って行なっているものであり、その能率の良さには驚くのほかはない。このような雑誌はイギリスだけがやっているのではないが、イギリスには特に多い。

単にサービス精神とか Sense of proportion とかだけでなく、このような事務的処理の能率化について、日本人はもっとも欠けるところがある。外国に旅行し、多くの物を見聞し、いろいろな知識の吸収を行なっているが、海外旅行で求めてくるべきものは、2—3の断続的な新知識よりも、彼らの文化を生んだ本質であり、そのような意味の勉強のためにこそ、政府はもっと留学生を派遣しなければならないと私は考えるのである。

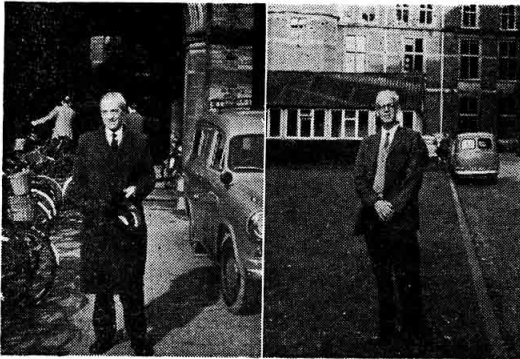
#### e. Cambridge 大学

—イギリスの大学教育—

ロンドンをたつ前の日、10月23日にCambridgeをたずねた。Prof. CORNERとProf. GARRETTに会いたかったからである。

☞コーナー博士は長くSingaporeの植物園にいた菌学者である。氏の研究には天才的な獨創性が豊

かで、私が最も尊敬するキノコの分類学者の一人である。氏の世界のホウキタケの著書は1000頁余の大冊であり、不朽の名著である。菌学的なこと



Prof. GARRETT  
(ケンブリッジ)

Prof. CORNER  
(ケンブリッジ)

は他誌にゆずるとして、氏は私に会うなり、いつ帰るかという。私は明日ロンドンをたつので夕方の汽車で帰るといったら、それは残念、一晩ぐらい泊って行かないかと、非常に親しみをもってくれた。

氏の机にはもと京都大学の植物の教授郡場寅先生の写真がかざってあった。そして、彼は「郡場先生こそ、自分が生涯忘れえぬ恩人である」と話していた。シンガポールが落城し、植物園長として赴任された郡場先生は、科学に国境はなく、友情に敵味方なしとの人類愛、科学愛から、捕虜であったコーナー氏をして自由に研究をつづけさせた。

日本人である私に対して、彼が示した親密感は一に同学の人としてではなかった。そしてそれは郡場先生の玉の如き人格のおかげであったのである。私は郡場先生には特に親しくしていただいたわけではないが、植物学の先輩として先生をもったことに心からの感謝の意をささげるものである。

コーナー博士は高等植物の分類学にもくわしく東亜熱帯に多い *Ficus* (イチジク属) の分類学的研究をも行なっている。彼の学識の豊かさをもまた敬服に価する。

Prof. GARRETT は 土壌病害の研究者として著名な植物病理学者であり、また菌類の生態学者である。私は今まで氏とは何の交際もしていなかったが、氏の名著 *Root Diseases* や *Biology of Root Infecting Fungi* を読んで深い敬意をいただいていた学者であったので、ぜひそのけい咳に接したかった。

初対面にもかかわらず旧知の如き親しさで迎え

てくれ、氏の室で懇談し、大学の教授の社交室で昼食を馳走になり、ケンブリッジ大学の案内など親身のあふれたもてなしをうけたことも忘れ得ぬ感激であった。

私はさいきんイギリスの科学者にとくに関心をもっている。それは GARRETT の著書を読み、DUDINGTON の *The Friendly Fungi* や HOWARD の *Agricultural Testament* を読み、かれらの研究に大人の研究があり、豊かな教養と高い科学精神と、しかもなお生活に結びついた実用性が豊かであることを感じていたのである。

こんどイギリスという国をたずね、乏しいながらもいろいろのことは見、聞きして、大人の国だなどの感じを深くした。そして、帰国後、朝日新聞の記者松本泰氏の「滞欧6年」を読み、イギリス人の国民性にそれが根ざしていることを知ったのである。国民性というものは、先天的なものだけではない。長い間の歴史、伝統、文化に根ざし、さらに教育、環境によって育てられ、それがあたかも生まれつきの性格のように身についたものである。

今の日本人がいかにか日本の歴史、文化、伝統、風土を忘れても、日本人をつくりあげたこれらのものから離れることはできないのである。日本人の本質を見失なうことは危険である。それは世界人としての日本人であることを、むしろ忘れることであり、日本人の存在意義さえも失なうことになる。われわれは広く世界を知らねばならないと同時に日本を、そして日本人をもっと知らねばならないことを痛感するのである。

ケンブリッジの町、いな大学はすばらしい。ここでイギリスの College, University, 大学教育のモデルを見せられた。すなわち大学が単に知識の教育機関ではなくて、人間性の教育場であるということである。

College はわれわれのいう学校ではなく、寄宿舎であり、寮なのである。ケンブリッジには20余の College がある。古いものは200年の歴史をもっている。ここで学生は教授家族と起居を共にし、人間的訓練をうける。授業には School があり、そこに通うのである。

College と School を総合したものが University なのである。このシステムは Oxford も同様であるらしい。

ケンブリッジの町は人口20万ぐらい、大学を中心として発達した大学都市である。日本やフランスのように、大都市の中にふつうの官庁のような形で建てられているのではない。広々とした美しい芝生の広場、グラウンド、美しい河、美しい並木、林、すべて学生生活にふさわしい、美しく清らかな

環境をつくりあげるように、大切に手入れされ、伝統がまもられている。そして、School, College, 商店街が混然一体となってケンブリッジの町が形づくられている。学生がのびのびと自由にしかも規律をもって生活し、それでいて社会と没交渉ではなく社会人としての訓練をうけ教養が身につけられるようになっている。

私はガレットさんの案内で2時間ばかり、学内市内の各所を歩いたが、こんなところで最後の学生生活をおくるケンブリッジの学生の幸福を羨まざにはいられなかった。

ケンブリッジとオックスフォードとはイギリスのもっとも伝統ある大学である。イギリスのいわゆるエリートたちはこれらの大学を卒業し、イギリスの政治、経済、外交、文化のリーダーとなっているそうである。これらのことについて私は恩田さんからいろいろなことをうかがったが、うけ売りはやめておこう。

## 12 オランダ

オランダではライデンの Rijksherbarium (国立植物標本館) に Dr. M. A. Donk その他の菌学者に会うことをたった一つの目的としていたが、ウィーンの会議で林業試験場の Dr. Gremmen (フレメン) に会い、是非といわれたので予定を変更し Wageningen をも訪ねることとした。

10月25日午後、アムステルダム空港に着く。空港には秦野のたばこ試験場からウィルス病研究のため留学していた若い植物病理学者、都丸敬夫氏と、ドンク博士が出迎えて下さった。ドンク博士の車でまずライデン市に行き、氏の研究室でひと休み、夕方の汽車でワーゲニンゲンに行く。

オランダは小さな国であるから、国内のどこへ行くのにも大して時間はかからない。ワーゲニンゲンは南オランダの中央部にある小さな田舎町である。しかし、ここには農、林関係の研究所や大学が集まっており、オランダにおける農、林業の研究の一大中心地である。研究機関の数は80に近いというから、驚くべきものである。

林業試験場は創立10年未満のもので、陣容も設備も貧弱である。建物は民家を改造したようなものでそまつであるが、構内にはポプラ類、カラマツ、マツ類が植えられ育種、病虫害の試験が行なわれていた。

ポプラでは、ここでもウィルス病が問題となっており、抵抗性品種の選抜試験が行なわれていた。季節がおそかったので、病兆は判らなかつたが、多くの品種が植栽され、罹病性のものは生長も悪く、すでに葉はおち、抵抗性のものは健全に大きく育っていた。ポプラのウィルス病は日本で

も一昨年来、北海道に発生をはじめ、注目されていた。

ウィーンでの国際会議がはじまる前日、すなわち9月10日にFAOのポプラ会議の病害班の会議がひらかれた。東京出発前にその通知をうけたので、出席したが、その席で日本のウィルス病について報告したところ、病兆はちがうようだが欧州にも発生をはじめていることを、ここで始めて聞いた。

私の生態的防除論的な仮説からすれば、林木ではポプラこそウィルス病が最も発生しやすい樹種であることになるのである。

いずれにしても、時代の脚光をあび、林業家から次代のホープとされているポプラの将来に、一つの暗いかげをなげかける病気であると思われるので、育種家も、造林家も、保護家も細心の注意をはらわなければならないと考える。

フレメン氏はカラマツとポプラ品種を一行おきに植えた試験地で、銹病 (*Melampsora larici-populina*) に対する抵抗性品種の選抜試験を見せた。この銹病に対する抵抗性試験の結果は、だいたい千葉修博士の結果と同じようである。ストロブ松の発疹銹病に対するアクチジオンの試験も行なっていた。まだ結果はでていなかった。これも一つの流行的現象か。

午後フレメン氏は森林を見せようとドライブに誘い出してくれた。オランダは狭い平らな国で森林などはあるまいと考えていたが、案に相違し、かなり広い森林地帯があった。ドンク博士にいわせれば、海拔10mの所はオランダでは山なのだそうです。

ブナ、オウシュウアカマツ、トウヒ類のほか、アメリカから輸入したオレゴンパインなどの森林があった。オレゴンパインは非常に良い生長を示していた。

オウシュウアカマツの森林で所々に大小の穴ができていた。ツチクラゲ *Rhizium undulata* による根ぐされ病で枯れたのだそうである。この菌が焚火をした跡に発生しやすいことはすでにいわれていたことであるが、病気も同様で、林内で焚火をすると、その地点を中心として病気が発生し、直径数十mになるまでひろがるのである。したがって、林内で焚火をすることは厳禁であるとのことである。

日本にもツチクラゲはあるが、まだこの菌による病気は知られていない。将来、注意すべきであろう。

## 13 コペンハーゲン

いよいよ、ヨーロッパ最後の地である。大学付

属の 胞子植物研究所 Institute for Spore Plants で、デンマークの菌学者に合うのが目的でこの地を訪ねた。

Prof. M. LANGEは親子そろってキノコの学者であり、先代のJ. LANGEは名著、デンマーク菌類図譜全五巻の著者である。こんな小さな国でも菌類は豊富であり、しかも研究が行きとどいている。それも地の利を得ているからであり、デンマーク人の教養の高さのためでもであろうが、日本も早くここまできたいものだと思感する。

林業関係は全く見なかったので、報告することはないが、菌学の研究についてただ一つだけを紹介しておこう。

研究所には数名の菌学者がいたが、そのうちの1人であるE. HANSEN 女史がサルノコシカケ類を専攻していた。彼女はたくさんの Thai 国産の標本をならべて頭を悩ましていた。ヨーロッパの菌学者は現在アフリカや東亜の菌類に非常な関心をもっている。

デンマークでも、先年タイのバンコックで開かれた汎太平洋学術会議に代表を派遣して以来、直ちにタイ国に生物学の調査団を送り研究をはじめた。それ以来、デンマークとタイ国の学者との間

に交渉がはじまり、標本が送られるのであろうが、これは日本にとってもうかうかできない問題である。

東南アジアの菌類は日本と関係が深い。日本の菌を知るためには、欧米の菌を知ることと同様に東南アジアの菌を知らねばならないのである。しかも東南アジアの研究には日本の方がはるかに地の利をえているのである。

さらに、最近コロンボ計画により、東南アジア諸国の技術指導を日本が行なっているが、東南アジアの自然を知らないで、農林業の指導ができるかどうか。それは改めて考えるまでもないであろう。東南アジアの研究はぜひ日本がリーダーシップをとらなければならない。それは感傷でもなくうぬぼれでもない。

日本のためにも、東南アジアのためにも絶対必要なことなのであると痛感する。

以上でヨーロッパ旅行は終わった。11月1日早朝の飛行機でコペンハーゲンの空港をたつ。そして大西洋を横断、10時間後にはニューヨークの土をふむことができるであろう。

つづく

### トウヒおよびアカマツの てんぐす病について

浜 武 人  
林業試験場木曾分場

私は本誌VOL. 11 No. 1 にトウヒおよびアカマツのてんぐす病をお知らせしておいたが、18頁のトウヒのてんぐす病写真としてあるのは、アカマツのてんぐす病の誤りである。トウヒのてんぐす病は写真第1図のとおりであるので参照せられたい。

なお誤って掲載されているアカマツのてんぐす病を林木育種場長野支場百瀬課長にご尽力いただいで望遠レンズで撮影してみてもらったところ、罹病部がやや明瞭となった(第2図)またこの時人に頼んで一部採集して調査した結果、どの部分の葉も長さはふつうのもの約1/2程度で密にこみ、かつ球果の着生

も顕著であった。

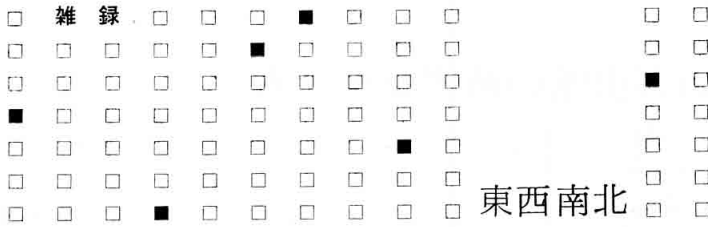
次にアカマツのてんぐす病には第3図のような掛巢型もあることを思い出したので追記しておく。これは現在長野県庁林務部治山課県有林係長・久保田技師が、諏訪地方事務所在任当時、蓼科山麓で採集したとって昭和35年1月私のところへ鑑定を求めてきたものである。この病徴は前記鞍掛型のものより葉がさらに短く密生し、中心部附近には枯死している枝も認められた。



第1図 トウヒのてんぐす病 長野王滝  
第2図 アカマツのてんぐす病 (鞍掛型) 長野小諸  
第3図 アカマツのてんぐす病 (掛巢型) 長野諏訪

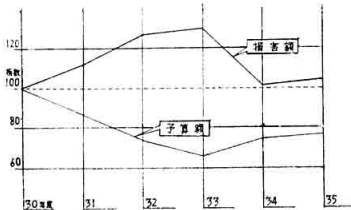


森林防疫ニュース



東西南北

あるグラフ



森林病虫害等の年度別被害額と助成費との関係（昭和30年を100とした指数）

38年度予算の概算要求書からひろった一つのグラフ。予算が減ると損害がふえる……顕著な反比例を示している。

38年度予算の概算  
要求書原案成る

38年度の森林病虫害等防除に必要な経費要求書は、去る5月末から編成に着手し、このほど総額326.896千円の林野庁原案が成り、農林大臣官房に提出された。

その内容のうち、主として新規事項について、かいつまんでお知らせする。

(1)被害発生量の推定

38年度の害虫別被害発生量の推定は、事業計画の基本となる事項であるが、これについては既往各年における実績値から、数式により推定する方法をとった。

(2)経費単価

人夫賃単価を実態に近からしめるため、460円に改訂することとした（前年度350円）。また、薬剤費については据え置きとしたが、まつばのたまばえとすぎたまばえの駆除単価の統一を行なうこととした。

(3)駆除工程

駆除の作業工程については、36年以來人夫賃単価引上げの結果の逆算工程として、毎年工程アップを余儀なくされているため、現行工程は著

しく現場の実情を無視するものとなっており、適切な事業の推進に支障があるので、実行工程を基礎に改訂することとした。

(4)事務費補助金

前年度まで毎年、事業費×3%×1/2の積算基礎となってきたが、これでは現地の活動がきわめて困難であり、事業の円滑な推進にも支障がある。よって38年度は、この事業推進の中核的存在である森林害虫防除員（全国3,425人）の活動を強化促進するために必要な経費として要求目標を掲げ、その増額を期することとした。

(5)発生消長調査事業

これについては、法定害虫（6種）の666の既設箇所所定の定点調査を継続するほか、新たに突発害虫126箇所調査地を設定することとした。対象害虫は、すぎはむし、こがねむし、はばち類の3種であるが、これらはいずれも被害面積が大きく、かつ、分布も普遍的なものであり、法定害虫に準じて対策を必要とする害虫であることから、その消長等について組織的に究明し、あわせて防除効果の発揚に資することとした。

(6)カラマツ先枯病対策

北海道および東北各県における民有林のカラマツ先枯病の被害は、現在およそ40千haと見込まれているが本病の症状の激甚さと、そのまん延の異常性からみて、早急に防除対策の樹立が要請されている。よって38年度は、前年度に引き続いて被害の実態調査を行ない、有効適切な対策への基礎資料を収集するとともに、まん延しつつある地方における急激な拡大を防止するため、被害木の伐倒、焼却等の駆除を強力に実施するために必要な経費を要求する予定である。

(7)有害獣駆除事業

イノシシならびにノウサギによる農林業の被害を防遏するため、イノシシについては捕獲柵の設置（35年以來継続実施）、ノウサギについてはその捕獲奨励（新規、被害の大きい府県に対し5カ年計画で補助金を交付し、現在のノウサギ生息数を約半分に低減せしめる目標である）を行なうものである。

概算要求総括表

区分	前年度 予算額 千円	38年度 要求額 千円	備考
林業関係費	177,328	326,896	
(国営駆除事業)	27,179	38,534	松くい虫 立木 32,400cf 伐倒木 55,900cf
駆除事業委託費	11,851	16,750	
駆除損失補償金	15,328	21,784	松くい虫 163,460cf くりたまばち 62,900cf
(公益駆除事業)	150,149	288,362	松毛虫等 14,500ha まいまいが 3,600cf たまばち 32,100cf おぞみ 10,900cf 野おぞみ 96,300cf
法定害虫駆除費	107,059	213,827	実態調査結果に基づき防除費を追加要求する予定である。
カラマツ先枯病防除費	-	-	
突発害虫駆除費	30,000	20,000	
カラマツ先枯病調査費	1,838	2,449	
害虫駆除事務費	4,839	12,328	
有害獣駆除費	2,910	33,619	猪 3,000千円 野兔 29,940千円
発生消長調査費	3,502	6,142	観測 666箇所 駆除 126箇所

T-7.5も補助対象に

林野庁は6月28日、松くい虫駆除剤「T-7.5乳剤A」を、補助事業の対象薬剤として承認し、このむね、同日付で関係者に通達した。

これは、熊本県からの承認申請にたいして行なわれたもので、承認の条件として、①「事業の実施において、林業関係事業補助金等交付要綱に定められた重要な変更を生ずる場合には、所定の手続きをとること」②「この薬剤は浸透性があり、省力防除の趣旨に合致するものと考えられるが、防除効果を確実ならしめるため、つとめて剥皮した後（全面剥皮が困難である場合は部分剥皮でもよい）使用するようになされたい」、の二つが上げられている。

熊本県では、こんどの申請の理由は、①本県における松山の地被物はシダ類が多く、剥皮焼却をした場合火災の危険が多い。②早期駆除を実施する場合には特に風や湿度の関係で剥皮焼却では山火事の危険がある③最近の農山村の労力不足を薬剤使用によって補いたい、ためであるといっている。

(37.6.28日付け37林野造第1668号)

情報

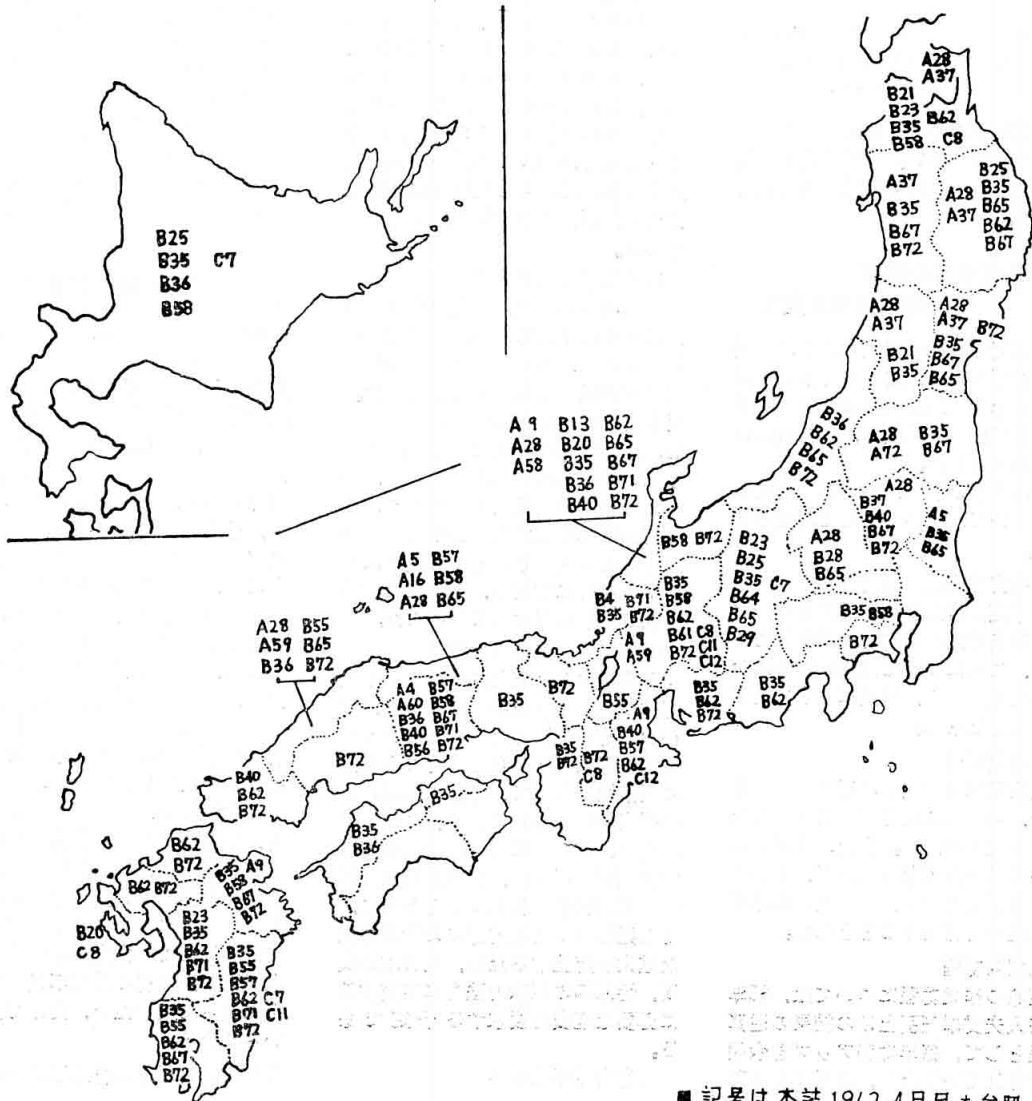
被害速報

森林病虫害獣の被害発生状況

森林病虫害獣被害（発生）速報カード37.4.1から37.6.30の間に到着した分を集計したものである。

	松くい虫	松毛虫	くりたまちば	すぎはだに	まつばのたまばえ	まいまいが	すぎのたまばえ	のねずみ	はばち類
報告件数	79	165	23	201	8	25	25	14	61
被害数量	4,565㎡	7,694ha	834㎡	5,148ha	136ha	1,935ha	6,378ha	188ha	692ha
	カラマツ先枯病	その他虫害	その他病害	その他害獣	その他害	件数計			
	28 617ha	89 2,048ha	46 645ha	25 231ha	789				

◇ 本号掲載被害分布 ■ 速報カード1962.5.20~6.19の間に提出分



■ 記号は本誌1962.4月号を参照

1962

## 森林防疫ニュース

## 病 害

## ○ タケ自然枯病

発生場所	被害程度	樹種 樹齢	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘 要
岡山 吉備郡昭和町		マダケ 1～6年	面積 3.0ha 本数 3千本	5.1	昭和町駐在 A g. 高田 勝則	

## ○ 針葉樹稚苗の立枯病

茨城 鹿島郡鹿島町		クロマツ 1年	面積 0.3ha 本数	5.26	鹿島町大字宮中 A g. 戸村 久次	
鳥取 岩美郡岩見町		アカマツ (苗畑)	面積 0.05ha 本数	5.21	鳥取地方農林振興局 2森林区 A g. 岡本	

## ○ スギの赤枯病

石川 七尾市黒崎町		スギ 2年	面積 1.0ha 本数 80千本	6.18	県七尾事務所林務課 山口 忍	
岐阜 掛斐郡谷汲村		スギ 2～4年	面積 2.0ha 本数 3千本	6.10	谷汲村大字木曾尾 松浦 児市	
三重 不破郡関ヶ原町		スギ 2～4年	面積 0.3ha 本数 2千本	6.22	関ヶ原町駐在 A g. 田中	
大分 大分市尾鷲署 (北牟婁郡海山町)		スギ 4年	面積 5.0ha 本数 6千本	5.27	尾鷲署相賀担当区 藤田 繁男	
大分 南海部郡宇目町		スギ 2～3年	面積 3.0ha 本数 1.5千本	5.7	宇目町 A g. 原 玄	ボルドー液(6斗式)撒布

## ○ スギの黒点枝枯病

和歌山 大分市田辺署 (日高郡美山村)		スギ 6～7年	面積 35ha 本数 73千本	6.8	真妻担当区事務所 藤原 英夫	
------------------------	--	------------	--------------------------	-----	-------------------	--

## ○ スギの黒粒葉枯病

鳥取 倉吉市		スギ 10～20年	面積 0.1ha 本数 0.1千本	5.29	倉吉地方農林振興局 A g. 北村	被害枝葉の除去, 下刈, 除伐を指導
--------	--	--------------	----------------------------	------	----------------------	--------------------

## ○ アカマツの葉さび病

青森 三戸郡田子町		アカマツ 4年	面積 51ha 本数 153千本	6.16	田子町 馬場 照夫	下刈の実施と銅水銀剤撒布を指導
岩手 青森局一ノ関署 (西磐井郡平泉町)		アカマツ 5年	面積 20.8ha 本数 80千本	5.20	一ノ関署	
宮城 青森局宮古署 青森局気仙沼署 (下閉伊郡山田町)		アカマツ 4～10年	面積 20ha 本数 0.2千本	5.20	山田担当区事務所 奈良 政雄	
山形 気仙沼市 桃生郡桃生町		アカマツ 5年	面積 0.6ha 本数 2.4千本	5.28	松岩担当区 猿橋 幸夫	
福島 西置賜郡小国町		アカマツ 4～6年	面積 5ha 本数 20千本	5.15	河南町役場 佐藤 齋	
福島 前橋局富岡署 (双葉郡大熊町)		アカマツ 3年	面積 70ha 本数 28千本	6.5	寒河江市林業指導所 齋藤 諦	
福島 東橋局原町署 (相馬郡飯館町)		アカマツ 5年	面積 20ha 本数	5.10	大野担当区 大森堅太郎	
福島 前橋局石川署 (東白川郡古殿町)		アカマツ 2～3年	面積 10ha 本数 45千本	6.14	草野担当区主任 堀 利八郎	
福島 石城郡三和村		アカマツ 3年	面積 4.2ha 本数 19千本	6.12	竹貫担当区 渡部信一郎	
栃木 那須郡大沢町		アカマツ 2～4年	面積 40ha 本数 160千本	5.7	平林業事務所三和駐在所 A g. 柴口 清孝	
群馬 藤岡市上日野		アカマツ 2～3年	面積 7ha 本数 35千本	5.10	県 S p. 吉田 光男	3年生3haは激害, 2年生4haは微害
石川 鹿島郡能登島町		アカマツ 2～4年	面積 3ha 本数 15千本	5.24	藤岡林業事務所 A g. 日野友次郎	
長野 長野局岩村田署 (北佐久郡軽井沢町)		アカマツ 1～5年	面積 3ha 本数	4.10	能登島町 西川 了	
鳥取 西伯郡岸本町		アカマツ 5年	面積 6.3ha 本数 19千本	6.5	追分担当区 城倉 邦雄	
島根 能義郡布部村		アカマツ 3年	面積 0.3ha 本数 0.9千本	5.25	日野郡溝口町 長田 哲夫	35年度植栽地
島根 能義郡布部村		アカマツ 2～8年	面積 15ha 本数 45千本	5.13	県林業課 高井 允宏	

森林防疫ニュース

○ カラマツの先枯病

発生 の 場所	被害 程度	樹 林 種 類	種 齢	被 害 数 量	発 見 月 日	情 報 提 供 者 氏 名	摘 要
青 森 青森局むつ署 (むつ市)		カラマツ	4 年	面積 1.7ha 本数 20本	6.10	むつ市田名部海老川25 沢口 悦郎	
青森局脇野沢署 (下北郡脇野沢村)		カラマツ	3 ~ 9年	面積 31.1ha 本数 20千本	5.5~ 6.7	西脇野沢担当区主任 玉田 明	
青森局三戸署 (三戸郡田子町)		カラマツ	9 ~ 10年	面積 32ha 本数 5千本	5.29	田子町野々上 松尾 邦男	
三戸郡倉石村		カラマツ	15 年	面積 2.0ha 本数 5千本 材積 140m <sup>3</sup>	5.10	五戸林務出張所 工藤 宗三	
三戸郡新郷村		カラマツ	8 年	面積 48ha 本数 141千本 材積 280m <sup>3</sup>	5.11	五戸林務出張所 野崎 幸助	
青森局増川署 (東郡三厩村)		カラマツ	4 ~ 9年	面積 1.5ha 本数 0.8千本	4.16~ 5.31	増川担当区 大間 峻三	4~5年生1.0ha 9年生0.5ha
青森局乙供署 (上北郡天間林村)		カラマツ	3 年	面積 10ha 本数 42千本	4.23	天間林村 菅原 幸夫	激害
		苗 畑		本数 371千本	4.10	天間林村 石森 齋	
青森局弘前署 (中津軽郡岩木町)		カラマツ		面積 321ha 材積 450m <sup>3</sup>	5.25	百沢担当区主任 宮腰 祐二	
中津軽郡岩木町		カラマツ	11 年	面積 1.7ha 本数 49本	5.11	弘前林務出張所	
岩 手 青森局川井署 (下閉伊郡川井村)		カラマツ	1 ~ 2年	本数 60千本	4.10	川井村 宮崎 建吾	微害22千本 中害38千本
遠野市上郷, 綾織		カラマツ	2 ~ 10年	面積 250ha	6.20	遠野農林事務所	
宮 城 牡鹿郡稲井町		カラマツ	5 ~ 19年	面積 16ha 本数 48千本	5.28	石巻農林事務所 角田 貞	34年頃発生したものだと思わ れる
青森局中新田署 (黒川郡富谷村)		カラマツ	11~19年	面積 2ha	6.9	吉岡担当区主任 鈴木 実	
青森局石巻署 (牡鹿郡牡鹿町)		カラマツ	7 ~ 20年	面積 18.0ha 本数 35千本	5.30	大原担当区 外川 良一	
秋 田 山本郡二ツ井町		カラマツ	5 年	面積 0.1ha 本数 150本	5.28	山本林業事務所 大塚 福蔵	
山 形 最上郡最上町		カラマツ	5 ~ 20年	面積 4ha	6.16	最上町 Ag, 五十嵐哲男	
東根市大字東根		カラマツ	7 ~ 15年	面積 3ha 本数 5千本 材積 100m <sup>3</sup>	5.25	山形県林業指導所	

○ キリの天狗巣病

石 川 小松市		キ リ	2 ~ 30年	面積 20.5ha 本数 15千本	5.2	小松地区担当 A g. 藤部 孫一	砂丘地帯に大発生, 伐倒は く皮乾燥
---------	--	-----	---------	----------------------	-----	-------------------------	-----------------------

○ キリのたんそ病

岐 阜 山県郡伊自良村		キ リ	2 年	面積 0.3ha 本数 90本	5.14	伊自良村 山本 忠敏	
島 根 大原郡木次町		キ リ	3 年	面積 0.5ha 本数 300本	6.8	県, 林業課 森脇 朗	

○ キリのふらん病

岡 山 邑久郡長船町		キ リ	4 年	面積 0.01ha 本数 3本	6.1	岡山農林事務所 A g. 酒本 裕士	
------------	--	-----	-----	--------------------	-----	--------------------------	--

1962

## 森林防疫ニュース

## ○ サクラの天狗巣病

発生場所	被害程度	樹種 樹齢	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘要
福島 信夫郡松川町		サ ラ ク 年 5	本数 200本	4.15	福島林業事務所 A g. 遠藤 貞夫	

## 虫 害

## ○ イエシロアリ

福 井 福井市		家 屋 (杉材)		5.10	県林務課 小原 技師	ペプタ粉剤による防除
---------	--	-------------	--	------	---------------	------------

## ○ マツノホソアブラムシ

石 川 小松市瀬領町		アカマツ 3 年	面積 0.9ha 本数 2千本	5.17	県小松事務所 吉田 三郎	
------------	--	-------------	--------------------	------	-----------------	--

## ○ スギマルカイガラムシ

石 川 小松市井口町		ス ギ 2 年	面積 5ha 本数 0.3千本	3.15	県小松事務所 A g. 藤部 孫一	
長 崎 東彼杵郡川棚町		ス ギ 実生当年生	面積 0.2ha	5.24	諫早市 総合農林センター	

## ○ キマダラコウモリ

青 森 青森局鱒ヶ沢署 (西津軽郡鱒ヶ沢町)		ス ギ 6 年	面積 3ha 本数 42本	5.24	鱒ヶ沢署 今 実	
山 形 秋田局米沢署 (米沢市)		ス ギ 7 年	面積 2ha 本数 29本	5.18	板谷担当区 榎 鋼	

## ○ カラマツエダモグリガ

長 野 長野局上田署 (小県郡長門町)		カラマツ 12~10年	面積 100ha	6.2	大門担当区 三石 忠勇	
------------------------	--	----------------	----------	-----	----------------	--

## ○ スギメムシガ

青 森 三戸郡三戸町		ス ギ 6 年	面積 0.02ha 本数 36本	6.2	県三戸林務出張所 松橋 文男	
熊 本 鹿本郡鹿北村		ス ギ 4~6年	面積 2.0ha 本数 5千本	4.20	鹿北村大字岩野 猿渡 昭一	

## ○ カラマツツミノガ

北海道 帯広局上土幌署 (河東郡土幌村)		カラマツ 5~10年	面積 14.5ha 本数 13.5千本	5.18	上土幌営林署	
岩 手 青森局新町署 (二戸郡安代村)		カラマツ 55 年	面積 7.5ha 本数 7千本 材積 1,300m <sup>3</sup>	5.28	赤坂田担当区 早川 正美	
長 野 長野局岩村田署 (北佐久郡御代田町)		カラマツ 25~70年	面積 11.1ha 材積 3,216m <sup>3</sup>	5 中旬	御代田担当区主任 井口 仁	
北佐久郡軽井沢町		カラマツ 5~15年	面積 10ha 本数 28千本	5.10	北佐久地方事務所	
長野局岩村田署 (北佐久郡軽井沢町)		カラマツ 5~63年	面積 73ha 本数 113千本 材積 4,400m <sup>3</sup>	5.21	追分担当区主任 城倉 邦雄	

## ○ カラマツヒメハマキ

群 馬 前橋局草津署 (吾妻郡草津町)		カラマツ 9~30年	面積 25.0ha 本数 20千本 材積 800m <sup>3</sup>	6.6	草津担当区 大沢 一美	
------------------------	--	---------------	--	-----	----------------	--

森林防疫ニュース

○ ツガカレハ

発生 の 場所	被害程度	樹林種齢	被害数量	発見月日	情報提供者氏名	摘 要
北海道 札幌局白老署 (白老郡白老町)	発生	トドマツ カラマツ	密度 小 虫態 幼虫	5.16	竹浦第二担当区	

○ マツカレハ

北海道 北見局網走署 (網走郡東藻琴町)		カラマツ 5~10年	面積 173.1ha 本数 121.3千本 材積 859m <sup>3</sup>	5.7	東藻琴担当区主任 中西 弘	激害地で1本当たり平均5匹内外、微害地で1.5匹内外棲息
帯広局中標津署 (標津郡中標津町)		カラマツ 10年	面積 498.5ha 本数 319千本	6.6	中標津署 上田嘉右衛門	
青森 八戸市		アカマツ 5~10年	面積 107ha 本数 442千本	5.10~ 5.26	八戸林務出張所 金谷 長吉	
三戸郡五戸町		アカマツ 2~20年	面積 32ha 材積 1,000m <sup>3</sup>	5.15	五戸林務出張所 野崎 幸助	
青森局市浦署 (北津軽郡小泊村)		クロマツ 20年	面積 0.2ha 本数 70本 材積 15m <sup>3</sup>	6.17	南小泊担当区主任 木津谷忠七	
岩手 青森局北上署 (北上市)		アカマツ 38年	面積 60.6ha 本数 200本 材積 50m <sup>3</sup>	6.5	煤孫担当区 斎藤 徹	
青森局水沢署 (胆沢市衣川村)		アカマツ 10~65年	面積 98ha 本数 95千本	5.26~ 5.31	水沢署 中村 清	
大船渡市		アカマツ 10年	面積 5ha 本数 20千本 材積 30m <sup>3</sup>	6.19	大船渡農林事務所 A g. 大庭 勉	
宮城 青森局中新田署 (志田郡松山町)		アカマツ 18~40年	面積 86ha	6.14	中新田担当区主任 村上 司	立木1本当10匹程度棲息微害程度
登米郡東和町		アカマツ 3~10年	面積 10ha 本数 40千本	5.20	東和森林区 亀井 幸記	
本吉郡本吉町		アカマツ 5~7年	面積 9ha 本数 39千本	5.28	本吉町大沢58の1 A g. 菅原 力哉	
栗原郡一迫町		アカマツ 2~10年	面積 50ha 本数 215千本	5.10	一迫森林区 A g. 下屋 勝二	
栗原郡築館町		アカマツ 7~8年	面積 7.5ha 本数 31千本	5.17~ 6.10	築館農林事務所 庄子 政夫	
秋田 秋田市		クロマツ 5~30年	面積 511ha 本数 4,608千本 材積 22,490m <sup>3</sup>	5.11	県秋田林業事務所	
南秋田郡天王町		クロマツ 4~26年	面積 249ha 本数 1,304千本 材積 5,800m <sup>3</sup>	5.11	県秋田林業事務所	
山形 飽海郡遊佐町		クロマツ 2~50年	面積 200ha	6.8	県飽海地方事務所 A g. 布施 英夫	
福島 前橋局原町署 (相馬市磯部町)		クロマツ 5~70年	面積 48ha 本数 58千本	5.16	原町営林署	
茨城 鹿島郡鉾田町		クロマツ 5~15年	面積 30ha 本数 120千本 材積 900m <sup>3</sup>	5.10	鹿行振興事務所 鉾田駐在所 大曾根豊之介	
西茨城郡若瀬町		アカマツ 3~17年	面積 20ha 本数 12千本 材積 100m <sup>3</sup>	5.20	県北振興事務所笠間駐在所 北野 元治	
稲敷郡江戸崎町		アカマツ クロマツ 2~20年	面積 30ha 本数 15千本 材積 80m <sup>3</sup>	5.10	県南振興事務所土浦地区 駐在所 A g. 宮本 武夫	
東京 西多摩郡瑞穂町 北多摩郡村山町 大和町		アカマツ	面積 675ha	4.10	水道局村山・山口貯水池 管理事務所	510haは5.23~6.5の期間に燻煙剤による駆除実施

## 森林防疫ニュース

発生 の 場所	被害 程度	樹 種 林 齢	被 害 数 量	発見 月 日	情報提供者氏名	摘 要
石 川 珠州市		アカマツ 5～20年	面積 50ha	4.30	珠州地区林業改良指導員 駐在所	昨年は60haに発生
輪島市		アカマツ 4～30年	面積 10ha	6.11	輪島市河井町 徳永 辰雄	
鳳至郡能都町		アカマツ 10年	面積 75ha 本数 750千本	5.25	能都町 中田 雅信	
鹿島郡烏屋町		アカマツ 5～15年	面積 20ha 本数 60千本	6.5	烏屋町 城戸口 保	
鹿島郡能登島町		アカマツ 5～40年	面積 75.5ha 本数 29千本 材積 1,767m <sup>3</sup>	4.4～ 4.12	能登島町 森井 益男 西川 了	
福 井 坂井郡三田町・ 芦原町		クロマツ アカマツ 3～25年	面積 218ha 本数 178千本 材積 2,600m <sup>3</sup>	5.11	県林務課 小原 技師	
長 野 伊那市		アカマツ 3～5年	面積 5ha 本数 17千本	6.14	上伊那地方事務所 A g. 浦野 守治	
佐久市大沢		カラマツ 4年	面積 12ha 本数 36千本	6.13	北佐久地方事務所 遊橋 洪基	
下伊那郡喬木村		アカマツ 8年	面積 1ha 本数 5千本	5.31	豊丘村役場 右賀 宏	
上伊那郡南箕輪 村		アカマツ 45年	面積 30ha 本数 35千本 材積 1,100m <sup>3</sup>	6.14	上伊那地方事務所 A g. 浦野 守治	
岐 阜 美濃市		アカマツ 40年	面積 28ha 本数 14千本 材積 2,350m <sup>3</sup>	4.10	県、武儀事務所 小林 賢一	
山県郡伊自良村		アカマツ 30年	面積 13ha 本数 3千本 材積 3,900m <sup>3</sup>	4.2	伊自良村 村橋 一兵	
可見郡御嵩町		クロマツ 4年	面積 15ha 本数 45千本	5.10	御嵩町役場 伊藤勝比古	
可見郡兼山町		アカマツ 15年	面積 9ha 本数 28千本 材積 10m <sup>3</sup>	3.25	兼山町 水野 嗣雄	
可見郡可見町		アカマツ クロマツ 5～40年	面積 150ha 本数 335千本	4月上 ～下旬	帷子森林組合 可見町森林組合	
静 岡 沼津市金岡		クロマツ 7～10年	面積 7ha 本数 14千本 材積 25m <sup>3</sup>	5.25	沼津林業事務所 山本 保孝	
吉原市		クロマツ アカマツ 5～70年	面積 27ha 本数 70千本	4.30	沼津林業事務所 山本 保孝	
田方郡大仁町		クロマツ 9～10年	面積 6ha 本数 41千本	5.17	県、技術吏員 勝俣 渡	
愛 知 豊橋市		クロマツ アカマツ 15～55年	面積 100ha 本数 158千本 材積 54,000m <sup>3</sup>	6.6	県、東三河事務所 森 昭舜	
瀬戸市		クロマツ 5～6年	面積 3ha 本数 6千本 材積 100m <sup>3</sup>	6.21	瀬戸市上半田川1014 長石 士郎	
額田郡額田町		クロマツ 6年	面積 2ha 本数 7千本	5.24	県、西三河事務所 城田久二見	
渥美郡田原町		アカマツ 10～40年	面積 67ha 本数 153千本	6.2～ 6.11	田原町役場 経 済 課	
渥美郡赤羽根町		クロマツ アカマツ 10～50年	面積 50ha 本数 15千本	5.27	赤羽根町 中村 方藏	

## 森林防疫ニュース

発生の場所		被害程度	樹種 林齢	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘 要
大 阪	八尾市		クロマツ アカマツ 5～7年	面積 本数 6ha 24千本	5.10	府, 林務課	
	枚方市津田町		アカマツ クロマツ 7年	面積 本数 5ha 20千本	5.10	府, 林務課	
兵 庫	西宮市甲陽園		アカマツ クロマツ 10～70年	面積 本数 30ha 12千本	4.20	宝塚林業改良指導地区駐 在所 金南 英司	
	宝塚市小林		アカマツ クロマツ 20～70年	面積 本数 7ha 5千本	4.15	// //	
	芦屋市		アカマツ クロマツ 20～80年	面積 本数 30ha 13千本	4.16	// //	
香 川	高松市		アカマツ クロマツ 20～40年	面積 本数 2.4ha	5.14	県, 林務課 岡 武雄 宮西作太郎	
	香川郡香川町		クロマツ 20～40年	面積 本数 5.0ha	5.14	県, 林務課 岡 武雄	
愛 媛	西字和郡三瓶町		アカマツ クロマツ 5～15年	面積 本数 37ha 145千本	5.14～ 5.17	八幡浜県事務所 兵頭 忠彦	
熊 本	荒尾市		クロマツ 8～11年	面積 本数 5ha 7千本	5.1	県, 玉名事務所 城戸 一誠	
	球磨郡相良村		アカマツ 8年	面積 本数 3ha 1.2千本	5.30	県, 球磨事務所 松平 三郎	
大 分	杵築市		クロマツ 12年	面積 本数 材積 1.0ha 2千本 10m <sup>3</sup>	6.1	杵築市 佐藤 勝一	
	速見郡山香町		クロマツ 8年	面積 本数 材積 30ha 60千本 150m <sup>3</sup>	5.17	// //	
宮 崎	児湯郡川南町都 農町, 木城村		クロマツ 25年	面積 本数 材積 10.0ha 20千本 1,000m <sup>3</sup>	6.14～ 6.16	児湯農林事務所 築地 俊樹	
	西諸県郡野尻町		クロマツ 3～15年	面積 本数 材積 20ha 60千本 40m <sup>3</sup>	5.17	野尻町 浜田 賢陸	
	西諸県郡飯野町		クロマツ 3～10年	面積 本数 23.8ha 71千本	5.23	飯野町 栗野 信夫	
鹿 児 島	大島郡喜界町		クロマツ 1～5年	面積 本数 3.5ha 7千本	6.10	大島支庁 上野 哲哉	
○ ドクガ							
島 根	能義郡布部村		アカマツ 5年	面積 本数 3ha 9千本	5.13	県林業課 高井 允宏	
愛 媛	西字和郡瀬戸町		ウバメガシ 150年	面積 本数 材積 0.03ha 40本 5m <sup>3</sup>	5.10	八幡浜県事務所 山内 要	
○ マイマイガ							
北海道	帯広局足寄署 (足寄郡足寄町)		カラマツ 8～9年	面積 本数 100ha 200千本	5.29	足寄担当区 中川 弘	
新 潟	新井市		スギ, 広 3～25年	面積 材積 1,100ha 12,000m <sup>3</sup>	5.3	頸城林業事務所 羽深 輝雄	
	高田市		スギ, 広 3～25年	面積 材積 250ha 5,100m <sup>3</sup>	4.20	// //	



森林防疫ニュース

発生場所	被害程度	樹種 樹齢	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘要
中頸城郡妙高々 原町		カラマツ スギ 3~15年	面積 250ha 本数 560千本 材積 2,000m <sup>3</sup>	4.27	頸城林業事務所 羽深 輝雄	
中頸城郡板倉町		スギ, 広 3~20年	面積 300ha 本数 172千本 材積 600m <sup>3</sup>	5.12	// //	
中頸城郡妙高村		スギ カラマツ 3~20年	面積 330ha 材積 11,500m <sup>3</sup>	5.17	// //	
中頸城郡中郷村		スギ カラマツ 3~20年	面積 300ha 本数 190千本 材積 1.850m <sup>3</sup>	4.26	// //	
中頸城郡清里村		スギ, 広 3~20年	面積 380m <sup>2</sup> 本数 168千本 材積 20,100m <sup>3</sup>	5.3	// //	
石川 小松市		広 2~20年	面積 5ha 材積 250m <sup>3</sup>	4.24	県, 小松事務所 A g. 藤部 孫一	
飯田市		ツガ カラマツ 20~80年	面積 0.1ha 本数 50本 材積 20m <sup>3</sup>	6.19	飯田市役所 菅沼 祥雄	
上田市大字殿城		カラマツ 6年	面積 2ha 本数 4千本	5.18	県, 上小地方事務所 A g. 小林 弘	
南佐久郡佐久町		カラマツ 5~19年	面積 100ha	5.17	佐久中部地区駐在 前島 功	ヘリコプターによるBHC 撒布
南佐久郡八千穂 村		カラマツ 1~30年	面積 300ha	5.18	// //	//
南佐久郡白田町		カラマツ 1年	面積 0.4ha 本数 1.2千本	6.4	南佐久地方事務所 遊橋 洪基	BHC粉剤 0.1ha当 3kg撒 布
長野局白田署 (南佐久郡佐久町)		カラマツ 4~19年	面積 6.18ha 本数 5千本	6.17	海瀬担当区 小林 員博	
島根 飯石郡赤来町		アカマツ スギ	面積 160ha	5.17	県林業課 高井 允宏	激害
邑智郡大和村		針葉樹 広葉樹	面積 730ha	5.17	//	//
岡山 和気郡三石町		クスギ ナラ 15~20年	面積 1.50ha	6.6	和気農林事務所 A g. 小松 栄	

○ クスサン

石川 鹿島郡能登島町		クリ 10~50年	面積 50ha 材積 370m <sup>3</sup>	6.3	能登島町 西川 了	激害
三重 飯南郡飯高町		シンジュ ウグルミ 25年	本数 2本	6.16	松阪林業事務所 川北要始補	
岡山 阿哲郡哲西町		クリ 10年	面積 0.1ha 本数 10本	5.25	哲西町 A g. 原田 公造	
阿哲郡神郷町		クリ 1~10年	面積 0.8ha 本数 30本	5.21	神郷町 A g. 牧 真吾	
赤磐郡赤坂町		クリ 3~5年	面積 0.5ha 本数 6本	5.18	赤坂町 A g. 平井 靖志	
山口 下関市	発生	クリ	密度 虫態 幼虫	6.26	下関市役所 立野 啓	
玖珂郡美和町		クリ 15年	面積 0.2ha 本数 70本 材積 38m <sup>3</sup>	6.10	美和町 長津 松治	

○ ケブカスギハムシ

## 森林防疫ニュース

発生の場所		被害程度	樹種 樹齢	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘要
宮崎	串間市		スギ 2年	面積 8ha 本数 16千本	6.2	串間市大字西方 矢野 勝年	
	南那珂郡南郷町		スギ 1~2年	面積 7.9ha 本数 16千本	4.22	南郷町中村222 A g. 川崎 良賢	
○ スギハムシ							
島根	能義郡広瀬町・ 布部村		アカマツ クロマツ 2~8年	面積 430ha 本数 129千本	5.13	県, 林業課 高井 允宏	
宮崎	日南市富士		スギ 2年	面積 4.6ha 本数 6.2千本	4.25	日南市大字楠原 長倉 四士乙	
	西都市		スギ 2~5年	面積 2.0ha 本数 6千本	5.1	西都森林組合 金丸 実昭	
	西諸県郡飯野町		スギ 3~15年	面積 2.6ha 本数 7.2千本 材積 2m <sup>3</sup>	5.22	飯野町 栗野 信夫	
鹿児島	熊本局大口署 (大口市)		クロマツ 3~6年	面積 87ha 本数 367千本	5.15	加治木農林事務所 長 貞榮	
	始良郡横川町		クロマツ 3~10年	面積 15ha 本数 45千本	5.5	横川町役場駐在 A g. 吉井 勝男	
	始良郡栗野町, 吉松町		スギ クロマツ 1~10年	面積 255ha 本数 990千本 材積 1,500m <sup>3</sup>	5.21	栗野町駐在 A g. 増田 政武	
	始良郡牧園町	発生	クロマツ	密度 中 虫態 幼虫	5.20	牧園町役場 A g. 中山 政照	
○ ハンノキハムシ							
滋賀	甲賀郡信楽町		ヤマハン ノキ 2~5年	面積 3.2ha 本数 20千本	5.20	信楽林業事務所	
○ サビヒヨウタンゾウムシ							
三重	多気郡宮川村		スギ 2年	面積 0.15ha 本数 1.2千本	6.6	宮川村 A g. 吉田 清	
	和歌山 西牟婁郡串本町	発生	ヒノキ 2年(苗畑)	密度 中 虫態 成虫	5.20	県, 林試 S P. 岡 田	
○ マツノシラホソウムシ							
鳥取	鳥取市白兔		クロマツ 30~40年	面積 0.1ha 本数 100本 材積 10m <sup>3</sup>	6.19	7 森林区 A g. 福田	
岡山	和気郡三石町		アカマツ 30年	面積 0.2ha 本数 20本 材積 2.4m <sup>3</sup>	6.14	和気農林事務所 A g. 田淵 隆	
宮崎	児湯郡高鍋町		クロマツ 4年	面積 0.2ha 本数 100本	6.4	児湯農林事務所 築地 俊樹	
○ キイロコキクイムシ							
鳥取	気高郡気高町		アカマツ 100年	面積 0.2ha 本数 8本 材積 13m <sup>3</sup>	5.15	鳥取地方農林振興局 A g. 岩 成	
岡山	大阪局岡山署 (御津郡加茂川町)		アカマツ 90年	面積 0.01ha 材積 0.3m <sup>3</sup>	5.28	門城担当区主任	
大分	下毛郡耶馬溪村		アカマツ 40年	本数 2本 材積 1m <sup>3</sup>	5.30	中津農林事務所 A g. 石井 吉日	
○ ハンノキクイムシ							

森林防疫ニュース

発生場所	被害程度	樹種 種齢	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘要
岡山 真庭郡勝山町		クリ 2～8年	面積 0.6ha 本数 13本	5.18	勝山町若代 梶岡 千富	
○ ヒバノコキクイムシ						
富山 名古屋局富山署 (中新川郡立山町)		スギ 10～ 100年	面積 15.1ha 本数 90本	6.14～ 6.31	立山担当区 津崎喜久雄	
○ マツノキクイムシ						
青森 弘前市大字三和		アカマツ 37年	面積 5ha 本数 1.5千本 材積 320m <sup>3</sup>	5.11	弘前林務出張所	
東京 東京局東京署 (八王子市)		アカマツ 50～ 100年	面積 0.5ha 本数 210本 材積 125m <sup>3</sup>	5.30	南多摩地方事務所 井上 安治	
岐阜 美濃市		アカマツ 55年	面積 6ha 本数 3千本 材積 404m <sup>3</sup>	4.3	武儀県事務所 小林 賢一	
和歌山 西牟婁郡日置川 町		クロマツ 43年	面積 0.01ha 本数 1本	5.20	日置川町 A g. 加原 源一	
○ オオスジコガネ						
長野 小県郡真田町		カラマツ 1～3年	面積 20ha 本数 48千本	5.15	県, 上小地方事務所 上田 鉄夫	
○ 松くい虫						
青森 青森局弘前署 (中津軽郡岩木町)		アカマツ 50～60年	面積 10ha 本数 50本 材積 20m <sup>3</sup>	6.7	弘前市大字高杉 工藤 俊治	
岩手 釜石市		アカマツ 5年	面積 10ha	5.31	釜石市千鳥町 和山 牧童	
新潟 新発田市		アカマツ 30～80年	面積 18ha 本数 3千本 材積 438m <sup>3</sup>	4.22	新発田市新徒士町 A g. 川上 倉二	
石川 小松市日用		アカマツ 60年	面積 0.02ha 本数 22本 材積 11m <sup>3</sup>	4.28	県, 小松事務所 A g. 藤部 孫一	
岐阜 関市		アカマツ 40年	面積 3.0ha 本数 600本 材積 150m <sup>3</sup>	3.30	関市 佐藤 朝也	
	可児郡可児町	アカマツ クロマツ 30～60年	面積 62.1ha 本数 28千本 材積 3,080m <sup>3</sup>	4.5～5 月中旬	帷子森林組合 可児森林組合 玉置 寛二	
静岡 賀茂郡南伊豆町		アカマツ クロマツ 40～50年	本数 98本 材積 63m <sup>3</sup>	6.1	県, 下田林業事務所	
	賀茂郡下田町	アカマツ クロマツ 40～50年	本数 99本 材積 44m <sup>3</sup>	6.1	//	
	引佐郡引佐町	アカマツ 30～60年	面積 72ha 本数 280本 材積 78m <sup>3</sup>	5.23	引佐林業吏員派出所 A g. 長津 久一	
愛知 西尾市菱池		アカマツ クロマツ 80,200年	面積 0.6ha 本数 336本 材積 180m <sup>3</sup>	5.29	西三河事務所 城田久二児	
	刈谷市築地	クロマツ 200年	本数 1本 材積 10m <sup>3</sup>	6.7	//	
	岡崎市	アカマツ クロマツ 50～70年	面積 0.3ha 材積 8.5m <sup>3</sup>	5.26～ 6.4	// //	

森林防疫ニュース

発生の場所	被害程度	樹種 林齢	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘 要
碧海郡六ツ美町		クロマツ 70、250年	本数 8本 材積 54m <sup>3</sup>	6.5	西三河事務所 城田久二児	
幡豆郡一色町		クロマツ 30~50年	本数 15本 材積 15m <sup>3</sup>	6.7	//	
幡豆郡幡豆町		クロマツ 30~50年	本数 40本 材積 20m <sup>3</sup>	6.5	//	
三重 南牟婁郡紀宝町		クロマツ 10~50年	本数 5千本 材積 2,150m <sup>3</sup>		紀宝町 岡 勇	
山口 玖珂郡周東町		アカマツ 45年	本数 19本 材積 7m <sup>3</sup>	6.6	玖珂町 A g. 村中 瑞城	
福岡 遠賀郡水巻町		クロマツ 30~50年	本数 28本 材積 21m <sup>3</sup>	6.17	八幡林業事務所 井田 猛夫	
田川郡川崎町		クロマツ 25~45年	本数 58本 材積 23m <sup>3</sup>	6.10	飯塚農林事務所 青柳 正幸	
佐賀 杵島郡有明村		アカマツ クロマツ 46~56年	面積 6.1ha 本数 69本 材積 102.3m <sup>3</sup>	6.22	有明村 川崎 昇	
熊本 菊池市		クロマツ アカマツ 35~60年	本数 15本 材積 6.43m <sup>3</sup>	5.22	菊池市大字竜門 A g. 奥村 良夫	
宮崎 日南市		クロマツ 4~25年	面積 10ha 本数 1.5千本 材積 300m <sup>3</sup>	3.15	日南市大字板敷 長倉四士乙	
串間市		クロマツ 15~20年	面積 5.6ha 本数 6千本	6.5	串間市 矢野 勝幸	
南那珂郡北郷町		クロマツ 15年	本数 158本 材積 28m <sup>3</sup>	5.15	日南市大字板敷 松吉 彪	
鹿児島 熊本局上屋久署 (熊毛郡上屋久町)		クロマツ 240年	本数 54本 材積 131m <sup>3</sup>	4.1	上屋久署 上野 哲郎	
始良郡蒲生町		クロマツ 4~18年	面積 150ha 本数 980本 材積 40m <sup>3</sup>	4.25	蒲生町役場 迫間 栄	
○ カラマツアカハバチ						
長野 長野局白田署 (南佐久郡南牧村)		カラマツ 45年	面積 31.2ha 材積 6,647m <sup>3</sup>	6.12	海ノ口担当区 安江 久雄	
○ マツノキハバチ						
岩手 江刺市		アカマツ 2~3年	面積 0.2ha 本数 0.5千本	5.14	江刺農林事務所 鎌田 市誠	全域に発生
大船渡市		アカマツ 1~10年	面積 100ha	5.30	大船渡農林事務所 大庭 勉	
気仙郡三陸村		アカマツ 2~50年	面積 270ha	5.7~ 5.28	12森林区 高橋 清	
陸前高田市		アカマツ 2~20年	面積 500ha 本数 1,000千本	6.2	陸前高田市 A g. 佐藤 安	
胆沢郡金ヶ崎町		アカマツ 5~7年	面積 5ha	5.28	金ヶ崎町 薄次藤 三郎	
東岩井郡大東町		アカマツ 3~10年	面積 20ha 本数 100千本	5.20	第6森林区 A g. 清水 秀雄	
青森局宮古署 (宮古市, 下閉 伊那山田町)		アカマツ 1~20年	面積 306ha 本数 588千本	5.10~ 5.20	重茂, 豊間根担当区	
青森局水沢署 (江刺市, 胆沢郡)		アカマツ 2~17年	面積 98ha 本数 47千本	5.29~ 6.3	水沢署 中村 清	
青森局大槌署 (釜石市, 下閉 伊那大槌町)		アカマツ 2~9年	面積 46ha 本数 30千本	5.22	大槌営林署 小田 許久	

森林防疫ニュース

発生の場所		被害程度	樹種 樹齢	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘 要
岩手	青森局大船渡署 (陸前高田市)		アカマツ	密度 中 虫態 幼虫	5.30	矢作担当区 今野 憲穂 高田担当区 砂川 佳巳	
	青森局川井署 (下閉伊郡川井村)		アカマツ 3～4年	面積 1ha 本数 50本	6.7	川内担当区 小山 清儀	
	青森局一関署 (東磐井郡藤沢町)		アカマツ 2年	面積 2.7ha 本数 12千本	5.1	一ノ関署	
	青森局大船渡署 官行造林地 (気仙郡三陸村)		アカマツ 3～7年	面積 21.5ha 本数 85千本	5.23	三陸村 佐藤 力男	
	上閉伊郡大槌町		アカマツ 2～10年	面積 150ha	5.20	大槌町長 金崎 節郎	
宮城	青森局仙台署 (宮城郡泉町)		アカマツ 8～13年	面積 2.5ha 本数 5千本	5.21	仙台署	
	青森局石巻署 (牡鹿郡牡鹿町)		アカマツ 5～7年	面積 8.6ha 本数 44千本	5.22～ 6.13	大原担当区 外川 良一 牡鹿町 大窪 誠	
	石巻市荻浜		アカマツ 10年	面積 5ha 本数 20千本	5.1	石巻農林事務所 Ag. 芦田 栄一	
	牡鹿郡牡鹿町		アカマツ 6年	面積 5ha 本数 22千本	5.10	牡鹿森林区 Ag. 斎藤 忠	
	栗原郡一迫町		アカマツ 2～10年	面積 48ha 本数 206千本	5.10	一迫森林区 Ag. 下屋 勝二	
	栗原郡築館町		アカマツ 3～5年	面積 15ha 本数 52千本	5.26	築館農林事務所 庄子 政夫	
	栗原郡栗駒町		アカマツ 1～5年	面積 20ha 本数 20千本	5.28	三迫森林区 Ag. 熊谷 毅	
	桃生郡桃生町		アカマツ 4年	面積 0.1ha 本数 450本	5.15	河南町役場 佐藤 斎	
	本吉郡志津川町		アカマツ 2～8年	面積 60ha 本数 300千本	6.1	志津川町 遠藤 正志	
	茨城	東京局水戸署 (常陸太田市)		アカマツ	密度 小 虫態 幼虫	5.11	常陸太田市仲城町 細谷 公蔵
鹿島郡大洋村			クロマツ 4年	面積 0.1ha 本数 30本	5.28	林務職員鉦田駐在所 大曾根豊之介	
群馬	渋川市		アカマツ 6年	面積 1ha 本数 4千本	5.17	渋川林業事務所 塩原 右治	渋川市々有林
	北群馬郡子持村		アカマツ 2～12年	面積 5ha 本数 5千本	5.23	渋川駐在 Ag. 岩崎 政夫	
新潟	岩船郡山北村		アカマツ 6年	面積 0.2ha 本数 0.7千本	5.23	山北村大字北中 Ag. 大滝己之六	
石川	珠州市		アカマツ 4～7年	面積 3.3ha 本数 10千本	5.28	珠州地区駐在 Ag. 新保 喜造	
	長野	駒ヶ根市		アカマツ 2～3年	面積 3.98ha 本数 16千本	5.24	駒ヶ根市役所 金子 貞吉
下伊那郡阿智村			アカマツ 6年	面積 2.0ha 本数 1.2千本	5.29	阿智村駐在 Ag. 森田 稔	
上伊那郡宮田村			アカマツ 3年	面積 5.57ha 本数 22千本	5.18	駒ヶ根市役所 金子 貞吉	
上伊那郡中川村			アカマツ 3年	面積 0.1ha 本数 400本	5.17	中川村駐在 Ag. 神津 秀勝	
南佐久郡北相木村			アカマツ 2～6年	面積 20ha 本数 30千本	6.10	南佐久地方事務所 井出 敦	
鳥取	日野郡日南町		アカマツ 6年	面積 0.5ha 本数 250本	5.18	日南町 Ag. 長岡 章	
鳥根	飯石郡吉田村		アカマツ 5～10年	本数 30本	5.21	吉田村 岡田 嘉明	

森 林 防 疫 ニ ュ ー ス

○ クリタマバチ

発生 の 場 所	被害 程度	樹 林 種 類	被 害 数 量	発 見 月 日	情 報 提 供 者 氏 名	摘 要
岩 手 一ノ関市		ク リ	面積 0.75ha 本数 70本	6.10	一ノ関市 菅原 三夫	
胆沢郡衣川村		ク リ	面積 2,000ha 本数 50千本	6.7	第22森林区 Ag. 菊地 徹	
遠野市		ク リ	面積 55ha	6.19	遠野農林事務所 村上 富治	
青森局水沢署 (江刺市米里町)		ク リ	面積 78.9ha 材積 2,874m <sup>3</sup>	5.16	水沢署 中村 清	
宮 城 気仙沼市		広	面積 1,500ha 本数 750千本 材積 800m <sup>3</sup>	4.30	気仙沼市役所 南部 繁利	
石巻市		ク リ	面積 350ha 材積 50m <sup>3</sup>	5.16	石巻農林事務所 Ag. 芦田 栄一	
桃生郡河南町		ク リ	面積 0.3ha 本数 90本	5.14	河南町役場 佐藤 斎	
秋 田 山本郡琴丘町		ク リ	本数 200本	5.29	山本農林事務所 大塚 福蔵	
福 島 石川郡石川町		ク リ	面積 7,000ha 本数 1.4千本	5.2	棚倉林業事務所 小林 茂樹	
栃 木 前橋局大田原署 (大田原市宇田川)		ク リ	本数 17本	4 月 下旬	宇田川苗畑事業所 折笠 三郎	
石 川 鹿島郡能登島町		ク リ	面積 100ha	3.30	能登島町 西川 了	
岡 山 阿哲郡神郷町		ク リ	面積 0.2ha 本数 50本	5.21	神郷町 Ag. 牧 真吾	
大 分 別府市		ク リ	面積 5.0ha 本数 900本	4 月	別府市 河野 克巳	
杵築市		ク リ	面積 4.0ha 本数 800本	4 月	杵築市 佐藤 勝一	
南海部郡浦江町		ク リ	面積 0.5ha 本数 500本	3.31	浦江町 望月 庄七	
速見郡山香町		ク リ	面積 5.0ha 本数 1千本	5.10	山香町 佐藤 勝一	
速見郡日出町		ク リ	面積 3.0ha 本数 500本	4.15	県, 技師 河野 克巳	
鹿 児 島 始良郡浦生町		ク リ	面積 500ha 本数 4千本	5.1	浦生町役場 迫間 栄	

○ スギタマバエ

福 井 敦賀市		ス ギ	面積 1.0ha 本数 3千本	5.10	敦賀森林区 百田 Ag.	中害, 今後相当拡大の見込
丹生郡織田町		ス ギ	面積 15ha 本数 35千本	6.13	織田森林区 内藤伊兵衛	
岡 山 英田郡東粟倉村		ス ギ	面積 0.5ha 本数 1.5千本	5.15	大原町 Ag. 神田 卓一	325ha駆除済
熊 本 八代郡泉村		ス ギ	面積 0.5ha 本数 1.7千本	3.10	泉村 森園 徳男	
宮 崎 小林市		ス ギ	面積 2,300ha 本数 4,600千本 材積 20,100m <sup>3</sup>	3.26	小林市大字細野 滝 哲夫	
串間市		ス ギ	面積 100ha 本数 158千本 材積 4,200m <sup>3</sup>	6.7	串間市 矢野 勝幸	
北諸県郡山田町		ス ギ	面積 60ha 本数 180千本	4.10	山田町森林組合 日高 豊	

森林防疫ニュース

発生場所	被害程度	樹種 樹齢	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘要
宮崎	北諸県郡中郷村	スギ 3~20年	面積 188ha 本数 470千本	5.26	北諸県農林事務所 金丸 義衛	
	北諸県郡庄内町	スギ 3~15年	面積 120ha 本数 150千本	5.25	北諸県農林事務所 福山 竜雄	
	北諸県郡山之口村	スギ 2~20年	面積 77ha 本数 200千本		北諸県農林事務所 日高日出男	
	南那珂郡北郷町	スギ 5~15年	面積 109.6ha 本数 169千本	5.20	日南市 松吉 彪	
	西諸県郡高原町	スギ 2~50年	面積 600ha 本数 1,300千本	3.23	小林市細野 滝 哲夫	
	西諸県郡須木村	スギ 2~40年	面積 400ha 本数 800千本 材積 3,600m <sup>3</sup>	3.22	〃 〃	

○ マツバノタマバエ

石川	小松市	アカマツ 15~20年	面積 20ha 本数 19千本	4.20	県, 小松事務所 吉田 三郎	
	石川郡河内村	アカマツ 20年	面積 0.08ha 本数 30本	5.30	河内村森林組合	
熊本	玉名市	アカマツ クロマツ 5~50年	面積 87ha 材積 100m <sup>3</sup>	5.8	県, 玉名事務所 城戸 一誠	激害20ha, 中害17ha, 微害50ha,
	菊池市	アカマツ クロマツ 3~6年	面積 10ha 本数 40千本	5.8	菊池市 A g. 中川 学	
	鹿本郡菊鹿村	アカマツ 6年	面積 3ha 本数 12千本	4.5	県, 鹿本事務所 A g. 黒田 隆明	

○ スギノハダニ

宮城	青森局石巻署 (牡鹿郡牡鹿町)	スギ 4~10年	面積 44.56ha 本数 139.5千本	6.17	大原担当区 外川 良一	被害程度は微害。昨年度も被害発生。
秋田	能代市	スギ 6年	面積 2.6ha 本数 7千本	6.6	山本林業事務所 大塚 福蔵	
栃木	前橋局大田原署 (那須郡黒羽町)	スギ 3~10年	面積 0.18ha 本数 550本	5.31	須賀担当区 遠藤 隆	
神奈川	愛甲郡愛川町	スギ 4~5年	面積 2.0ha 本数 3千本	6.12	愛川森林組合	
	愛甲郡清川村	スギ 3年	面積 50ha	6.1	煤ヶ谷森林組合長 山田健三郎	
新潟	東蒲原郡津川町	スギ 10年	面積 4.0ha 本数 12千本	5.22	東蒲原林業事務所 岡本 秀一	
富山	名古屋局富山署 (下新川郡朝日町)	スギ 5~7年	面積 45.1ha 本数 136千本	5.1~ 5.26	泊担当区 清水 和美	
石川	七尾市	スギ 8~10年	面積 2.5ha 本数 6.3千本	5.30	七尾市万行町76の1 左古 清一	
	小松市	スギ 2~15年	面積 46ha 本数 114千本	4.17~ 4.20	県小松川事務所 吉田三郎, 藤部孫一	
	珠州市	スギ 3~10年	面積 30ha	5.1	珠州市上戸町 珠州地区林業改良指導員	
	鹿島郡鹿島町	スギ 5~15年	面積 48ha 本数 97千本	5.25	鹿島町 城戸口 保	
	鹿島郡鹿西町	スギ 7~15年	面積 20ha 本数 48千本	5.25	〃 〃	
	鹿島郡鳥屋町	スギ 7~10年	面積 20ha 本数 50千本	5.30	〃 〃	

森林防疫ニユース

発生場所	被害程度	樹種 齢	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘要
石川		スギ 1～7年	面積 50ha	4.10	能登島町 西川 了	
		スギ 5～10年	面積 35ha 本数 50千本	5.25	河内村長 A g. 宮道德太郎 松本 久衛	
福井		スギ 4～10年	面積 20ha 本数 45千本 材積 30m <sup>3</sup>	6.9	武生森林区 中村 一成	
		スギ 3～9年	面積 80ha 本数 230千本	5.10	敦賀森林区 百田・小林技師	
		スギ 2～8年	面積 7ha 本数 21千本	6.15	池田村 吉江 薫	
		スギ 4～8年	面積 2.0ha 本数 45千本	6.14	織田森林区 A g. 内藤伊兵衛	
岐阜		スギ 3～10年	面積 30ha 本数 90千本	4.7	武儀県事務所 小林 賢一	
		スギ 4年	面積 0.5ha 本数 1.5千本	5.1	関市 佐藤 朝也	
	発生	スギ 3～4年	面積 10.4ha 本数 13.1千本	4.23	東股担当区 黒坂 弘	
		スギ	密度 中 成虫	6.12	下呂署 渡辺 俊之	
		スギ 6～7年	面積 10ha 本数 150本	5.31	鹿山担当区 奥原 鉄男	
		スギ 3年	面積 6ha 本数 30千本	4.7	伊自良村 村橋 一兵	
		スギ 3～6年	面積 5ha 本数 12千本	5.18	徳山村森林組合 北村国三郎	
		スギ 3～5年	面積 3ha 本数 8千本	5.14	藤橋森林組合 杉島 宏之	
		スギ 3年	面積 3.6ha 本数 11千本	5.28	第50森林区 A g. 飯田 幸男	
		スギ 2～8年	面積 12ha 本数 38千本	5.16	七宗村役場 A g. 酒向 昇	被害拡大が予想される
		スギ 1～5年	面積 40ha 本数 120千本	5.10	八幡町 福地 喬雄	
		スギ 5～8年	面積 10ha 本数 27千本 材積 50m <sup>3</sup>	6.18	美並村 A g. 河合 専松	
		スギ 2～8年	面積 12ha 本数 24千本	5.14	大和村西川森林組合 三輪 一	
		スギ 3年	面積 18ha 本数 52千本	4.2	美山村 谷藤 利明	
愛知		スギ 1～2年	面積 25.2ha	6.12	豊邦担当区 田口担当区 椎名 甚二 若田 義久	
		スギ 2～5年	面積 11ha 本数 30千本	4.25～ 5.23	豊田担当区 高原 信夫	
		スギ 5～60年	面積 0.3ha 本数 100本	6.4	西三河事務所 城田久二児	
		スギ 2～5年	面積 10ha 本数 26千本	6.21	設楽町 大竹 節也	
		スギ 2～5年	面積 8ha 本数 2.2千本	6.16	〃 〃	
		スギ 3～5年	面積 2.7ha 本数 8千本	5.24	西三河事務所 城田久二児	
		スギ 4～10年	面積 5.6ha 本数 16千本	6.1	県, 足助事務所 成本 政次	足助町 1.9ha 旭 村 3.7ha



森林防疫ニユース

発生 の 場所		被害程度	樹 種 林 齢	被 害 数 量	発見 月 日	情報提供者氏名	摘 要
三 重	尾鷲市		ス ギ 3 ~ 5年	面積 26.4ha 本数 141千本	5.7~ 6.7	林業事務所 尾鷲市役所 村島忠兵衛	
	名張市		ス ギ 1 ~ 10年	面積 300ha 本数 1,500千本	6.5	箕曲出張所 宮本 正一	
	北牟婁郡海山町		ス ギ 3 年	面積 1.2ha 本数 7.4千本	6.10	海山町森林組合 速水 勉	
	阿山郡大山田村		ス ギ 4 年	面積 0.5ha 本数 3千本	6.11	大山田村 向 英一	
	員弁郡藤原村		ス ギ 4 年	面積 1.0ha 本数 3.3千本	6.1	藤原村長 伊藤 紫朗	
	飯南郡飯南町		ス ギ 4 年	面積 3.5ha 本数 18千本	6.16	松阪林業事務所 森北与左衛門 川北 要始補	
	京都 大阪局京都署 (舞鶴市)		ス ギ 5 ~ 10年	面積 10.0ha 本数 25千本	6.8	舞鶴担当区 三島 博司	
大 阪 高槻市出灰		ス ギ 3 年	面積 2.5ha 本数 10千本	5.28	府, 林務課		
兵 庫 佐用郡佐用町		ス ギ 3 ~ 10年	面積 40ha 本数 120千本	5.31	42森林区 春名 常一		
奈 良	天理市		ス ギ 3 ~ 5年	面積 29ha 本数 205千本	5.20~ 5.25	第2森林区 森林組合 北村政之祐 城吉 次郎	
	吉野郡大淀町		ス ギ 2 ~ 4年	面積 3ha 本数 25千本	6.20	21森林区 A g. 今西 重成	
	吉野郡下市町		ス ギ 5 ~ 10年	面積 10ha 本数 60千本	5.28	"/ "/	
和歌山	大阪局田辺署 (西牟婁郡中辺 路町)		ス ギ 4 ~ 5年	面積 5.31ha 本数 3千本	6.13	栗栖川担当区 大辻 一郎	
	東牟婁郡古座川 町		ス ギ 1 ~ 5年	面積 0.01ha 本数 70本	5.2	古座川町 根木 当治	
	東牟婁郡本宮町		ス ギ 7 年	面積 0.1ha 本数 150本	5 月	第4森林区 岡田 正平	
島 根	八束郡鹿島町		ス ギ 4 年	面積 0.2ha 本数 600本	6.1	24森林区 A g. 岸 忠夫	
岡 山	大阪局新見署 (川上郡備中町)		ス ギ 4 年	面積 2.1ha 本数 3千本	6.18	材担当区 西中 菊男	
	英田郡東栗倉村		ス ギ 3 ~ 5年	面積 6.5ha 本数 16千本	6.12	大原町 A g. 神田 卓一	
	英田郡西栗倉村		ス ギ 6 ~ 8年	面積 3.0ha 本数 8千本	5.16	"/ "/	
	川上郡成羽町		ス ギ 3 ~ 6年	面積 1.1ha 本数 3千本	5.26	成羽町 A g. 末田 安生	
	赤磐郡吉井町		ス ギ 2 ~ 3年	面積 7.5ha 本数 250千本	6.14	吉井町 阿部 昭明	
	阿哲郡哲西町		ス ギ 7 年	面積 1.0ha 本数 4千本	5.1	哲西駐在 A g. 原田 公造	
	真庭郡久世町		ス ギ 3 年	面積 2.0ha 本数 8千本	5.10	落合町 岡田 政雄	
広 島	大阪局福山署 (深安郡加茂町)		ス ギ 6 年	面積 8ha 本数 24千本	5.9	福山署 加藤 亘	
	比婆郡東城町		ス ギ 2 ~ 10年	面積 4ha 本数 18千本	6.11	東城町 伊達 翼	
山 口	玖珂郡美和町		ス ギ 4 年	面積 0.2ha 本数 600本	6.15	美和町 長津 松治	
福 岡	大牟田市		ス ギ 4 ~ 8年	面積 5ha 本数 15千本	5.20	筑後農林事務所 岡 照美	被害拡大の傾向

## 森 林 防 疫 ニ ュ ー ス

発生 の 場所	被害 程度	樹 林 種 齢	被 害 数 量	発 見 月 日	情 報 提 供 者 氏 名	摘 要	
福 岡	八女郡上陽町	ス ギ 4 ~ 6年	面積 12ha 本数 36千本	5.25	筑後農林事務所 岡 照美		
	八女郡立花町	ス ギ 5 ~ 8年	面積 10ha 本数 3千本	5.24	〃		
	八女郡黒木町	ス ギ 4 ~ 8年	面積 40ha 本数 120千本	5.25	〃		
	八女郡星野村	ス ギ 4 ~ 8年	面積 18ha 本数 54千本	5.24	〃		
	山門郡山川村	ス ギ 5 年	面積 2ha 本数 6千本	5.20	〃		
佐 賀	唐津市	ス ギ 1 ~ 10年	面積 25ha 本数 75千本	6.16	唐津市役所 兼 武		
	鹿島市	ス ギ 2 ~ 10年	面積 15.0ha 本数 53千本	5.28	鹿島市 古賀 敬悟		
	藤津郡塩田町	ス ギ 1 ~ 10年	面積 5.0ha 本数 20千本	5.25	塩田町 行武 政雄		
	藤津郡太良町	ス ギ 1 ~ 15年	面積 8.0ha 本数 28千本	5.25	太良町 宮 崎		
	杵島郡有明村	ス ギ 2 ~ 5年	面積 7ha 本数 22千本	5.3	有明村役場 川崎 昇		
	東松浦郡浜崎玉 島町	ス ギ 1 ~ 10年	面積 20ha 本数 60千本	6.19	玉島町役場 青木 佐市		
	東松浦郡厳木町	ス ギ 1 ~ 10年	面積 30ha 本数 90千本	6.15	厳木町役場 梅山 等		
	東松浦郡相知町	ス ギ 1 ~ 10年	面積 15ha 本数 45千本	6.20	相知町役場 野崎 義昌		
	東松浦郡七山村	ス ギ 1 ~ 10年	面積 60ha 本数 180千本	6.17	七山村役場 吉永 敏一		
	熊 本	菊池市	ス ギ 2 ~ 8年	面積 25ha 本数 75千本	5.22	菊池市 A g . 中川 学 奥村 良夫	
菊池郡旭志村		ス ギ 3 年	面積 30ha 本数 100千本	5.5	旭志村森林組合 坂本 繁人		
菊池郡大津町		ス ギ 3 ~ 6年	面積 5ha	5.7	大津町 A g . 作野 長久		
鹿本郡植木町		ス ギ 3 ~ 6年	面積 1ha 本数 3千本	5.4	鹿本事務所 A g . 黒田 隆明		
鹿本郡菊鹿村		ス ギ 3 ~ 5年	面積 4ha 本数 12千本	4.5	〃		
天草郡有明町		ス ギ 3 ~ 15年	面積 5ha 本数 15千本	5.20	有明町役場 中川 幸俊		
玉名郡三加和村		ス ギ 3 ~ 10年	面積 40ha 本数 120千本	5.8	玉名事務所 城戸 一誠		
大 分		別府市	ス ギ 1 ~ 10年	面積 6.0ha 本数 14千本	5.15	別府市 河野 克己	
杵築市		ス ギ 1 ~ 10年	面積 5.0ha 本数 12千本	5.15	杵築市 佐藤 勝一		
佐伯市		ス ギ 1 ~ 6年	面積 18ha 本数 54千本	5 月	佐伯市 白石 秀夫		
玖珠郡玖珠町・ 九重町	ス ギ 2 ~ 10年	面積 46ha 本数 60千本	4月~ 5月	玖珠農林事務所 樋口 勝人			
南海部郡本匠村	ス ギ 2 ~ 6年	面積 40ha 本数 100千本	5 月	本匠村 児玉 隆典			
南海部郡米水津 村	ス ギ 1 ~ 6年	面積 4.0ha 本数 12千本	5 月	米水津村 檜原 直			
南海部郡蒲江町	ス ギ 1 ~ 5年	面積 3.0ha 本数 9千本	5 月	蒲江町 望月 庄七			

1962

## 森林防疫ニュース

発生 の 場所		被害 程度	樹 種 林 齢	被 害 数 量	発見 月 日	情 報 提 供 者 氏 名	摘 要
大 分	南海部郡彌生村		ス ギ 1～6年	面積 13ha 本数 39千本	5 月	弥生村 高司 正己	
	南海部郡直川村		ス ギ 2～6年	面積 80ha 本数 240千本	5 月	直川村 原 玄	
	北海部郡坂ノ市町		ス ギ 7～10年	面積 7ha 本数 2千本	5.29	旧杵農林事務所 平 道行	
	速見郡山香町		ス ギ 1～10年	面積 4.0ha 本数 10千本	5.10	日出町 佐藤 勝一	
	速見郡日出町		ス ギ 1～10年	面積 2.0ha 本数 5千本	5.10	日出町 河野 克己	
	宇佐郡安心院町		ス ギ 3～7年	面積 5ha 本数 13千本	5.28	四日市農林事務所 杉本 正之	
	下毛郡耶馬溪村		ス ギ 4～5年	面積 2ha 本数 6千本	5.25	中津農林事務所 石井 吉日	
宮 崎	西都市		ス ギ 1～10年	面積 67.0ha 本数 200千本	5.1	西都市妻 金丸 実昭	
	串間市		ス ギ 3～10年	面積 62ha 本数 124千本	6.8	串間市大字本城 田代 緑	
	小林市		ス ギ 2～15年	面積 150ha 本数 375千本	5.26	小林市細野 滝 哲夫	激害100ha, 中害50ha
	北諸県郡荘内町		ス ギ 8～12年	面積 30ha 本数 75千本 材積 1,800m <sup>3</sup>	6.10	荘内駐在 田ノ土重雄	
	西諸県郡飯野町		ス ギ 3～8年	面積 44.9ha 本数 134千本	6.20	飯野町 栗野 信夫	
	西諸県郡野尻町		ス ギ 5～10年	面積 20ha 本数 44千本	5.17	野尻町 浜田 賢睦	
	西諸県郡加久藤町		ス ギ 3～10年	面積 30ha 本数 90千本	5.25	飯野町 栗野 信夫	
	西諸県郡真幸町		ス ギ 5～10年	面積 10ha 本数 30千本	5.25	〃 〃	
	東臼杵郡諸塚村		ス ギ 3～8年	面積 6ha 本数 17千本	4.28	諸塚森林組合 井ノ又種男	
	東臼杵郡北郷村		ス ギ 3～6年	面積 2.0ha 本数 6千本	5.19	第11森林区 森 文雄	
	東臼杵郡北川村		ス ギ 1～10年	面積 100ha 本数 300千本	5.20	北川村 中島豊, 吉永俊晴	
	東臼杵郡北浦村		ス ギ 2～15年	面積 30ha 本数 85千本 材積 800m <sup>3</sup>	4.10	北浦村 工藤 米吉	激害30%, 中害30%, 微害40%
	児湯郡高鍋町		ス ギ 3～6年	面積 40ha 本数 11千本	6.6	県, 造林課 細山田典昭	
	鹿 児 島	谷山市		ス ギ 5 年	面積 23.5ha 本数 82千本	4.4	鹿児島市山下町 福元 清
鹿児島市吉野町			ス ギ 4 年	面積 5ha 本数 13千本	3.10	県, 治山課 池田 慎一	
鹿児島市伊敷町			ス ギ 1～5年	面積 18ha 本数 58千本	3.15	鹿児島市山下町 福元 清	
鹿児島郡吉田村			ス ギ	面積 175ha 本数 480千本	3.5	〃 〃	
肝属郡吾平町			ス ギ	面積 10ha 本数 29千本	5.4	鹿屋農林事務所 下園 一徳	
肝属郡田代町			ス ギ	面積 20ha 本数 59千本	4.29	田代町駐在 A.G. 宮里 慶昭	
肝属郡根占町			ス ギ	面積 10ha 本数 29千本	5.4	根占町駐在 A.G. 下本地三夫	

## 森林防疫ニュース

発生場所	被害程度	樹種 種齢	被害数量	発見 月日	情報提供者氏名	摘 要
鹿児島 肝属郡内之浦町 肝属郡大根占町 肝属郡佐多町 始良郡蒲生町 薩摩郡東郷町 豊後郡財部町		スギ	面積 20ha 本数 58千本	4.29	内浦町駐在 A g. 内 邦博	集団発生
		スギ	面積 35ha 本数 92千本	5.1	大根占駐在 A g. 重信 富男	
		スギ	面積 5ha 本数 13千本	4.25	佐多町駐在 A g. 大山 義夫	
		スギ 1～10年	面積 102ha 本数 322千本	4.30	蒲生町役場 迫間 栄	
		スギ 1～8年	面積 15ha 本数 50千本	4.26	東郷町 竹之内典生	
		スギ 1～10年	面積 128ha 本数 396千本	4.22	財部町 新原 重徳	
<input type="radio"/> トドマツクイムシ <input type="radio"/> ヤツバクイムシ						
北海道 旭川局中頓別署 (枝幸郡浜頓別町)		トドマツ エゾマツ	面積 433ha 本数 370本	3.10	中頓別町 弓場 政雄	
<input type="radio"/> マツカレハ <input type="radio"/> ツガカレハ						
青森 上北郡百石町 三沢市		クロマツ 7～8年 アカマツ 6～7年	面積 30ha 本数 300千本 面積 20ha 本数 200千本	5.12 6.10	三沢林務出張所 A g. 木村平八郎 // //	
<input type="radio"/> マツノキハバチ <input type="radio"/> マツカレハ						
岩手 宮城 胆沢郡衣川村 玉造郡岩出山町 青森局中新田署 (黒川郡大和町)		アカマツ アカマツ 8年 アカマツ 6～11年	面積 100ha 面積 30ha 本数 90千本 面積 127.6ha	6.6 5.25 5.30	第22森林区 菊地 岩 岩出山森林区 A g. 高橋 照郎 吉岡担当区主任 鈴木 実	
<input type="radio"/> クスサン <input type="radio"/> オオトビモンシヤチホコ						
栃木 宇都宮市		クリ、ナラ 30年	面積 0.51ha 本数 80本	6.12	県, S P.	激害
<input type="radio"/> マツカレハ <input type="radio"/> マツノキハバチ						
長野 駒ヶ根市		アカマツ 2～15年	面積 2.61ha 本数 18千本	5.24	駒ヶ根市役所 金子 貞吉	
<input type="radio"/> カラマツイトヒキハマキ <input type="radio"/> カラマツハラアカハバチ						
長野 長野局伊那署 (伊那郡長谷村)		カラマツ 20～57年	面積 4.96ha	6.15	長谷村 奥原 実信	
<input type="radio"/> マツキボソゾウムシ <input type="radio"/> サビカミキリ						
岡山 大阪局岡山署 (御津郡加茂川町)		アカマツ 35年	面積 0.01ha 本数 5本	6.12	加茂川町 円城担当区	
<input type="radio"/> スギノハダニ <input type="radio"/> スギハムシ <input type="radio"/> スギタマバエ						

森林防疫ニュース

○ マツバノタマバエ

発生 の 場所	被害程度	樹林種齢	被害数量	発見月日	情報提供者氏名	摘 要
宮 崎	西諸県郡飯野町	スギ クロマツ 7~10年	面積 208.6ha 本数 6,260千本	6.1	西諸県農林事務所 宮元 鏡雄	

獣 害

○ ノネズミ

北海道	旭川局上川署 (上川郡上川町)	ヤチダモ カラマツ	面積 15.23ha 本数 13千本	4.11	上川署 横山 大樹	
	旭川局稚内署 (利尻郡東利尻町)	カバ カラマツ 1~4年	面積 10.9ha 本数 250本	4.20	営林署長	
長 野	諏訪市	カラマツ 3~4年	面積 10ha 本数 25千本	5.29	県, 治山課 保護 係長	
	小県郡長門町	カラマツ 2~5年	面積 30.0ha 本数 90千本	5.20	長門町役場 鳥羽 吉雄	
	下高井郡山ノ内町	スギ 10年	面積 3ha 本数 50本	5.28	山ノ内町駐在 A g. 阿部 春雄	
宮 崎	小林市	スギ 12年	面積 0.5ha 本数 10本	6.2	小林市細野 滝 哲夫	

○ ノウサギ

青 森	青森局鯉ヶ沢署 (西津軽郡鯉ヶ沢町)	スギ カラマツ 1~10年	面積 53.22ha 本数 7千本	4.1~ 6.10	鯉ヶ沢町 今 実	
	青森局増川署 (東津軽郡三厩村)	スギ カラマツ 3~7年	面積 2.28ha 本数 7千本	4.16~ 5.31	増川担当区 大間 皎三	
岐 阜	加茂郡七宗村	スギ ヒノキ 3年	面積 20ha 本数 65千本	5.12	七宗村役場 A g. 酒向 昇	
奈 良	吉野郡上北山村	ヒノキ スギ 3~6年	面積 10ha 本数 30千本	5.10	第23森林区 A g. 奥村 忠四	
長 崎	諫早市	ヒノキ 1~2年	面積 2ha 本数 250本	5.4	諫早市 農林センター	

○ シノシツ

岐 阜	揖斐郡大野町	スギ マダケ 1~5年	面積 1ha 本数 1.2千本	6.4	大野町 牛 洞	
宮 崎	西諸県郡須木村	ク リ 1年	面積 1ha 本数 200本	5.13	西諸県農林事務所 松元 辰男	

○ ク マ

岐 阜	名古屋局付知署 (恵那郡加子母村)	スギ 21年	面積 0.05ha 本数 153本	5.30	西股担当区 大島 哲男	
三 重	尾鷲市	ヒノキ 11~31年	面積 8ha 本数 1.5千本	5.10	尾鷲市役所 山林事業所	
	飯南郡飯高町	モミ ツガ ヒノキ 50,100年	面積 10ha 本数 100本	5.16	飯高町 A g. 川口多三郎	